

シユルチエンスタイン氏

日本民事訴訟法草案

日本民事訴訟法草案

スタイン氏述

司法部記録文庫
第七百二十九號

第六號
第四架
第五

司法部
第三八號
寄贈圖書文庫

三對スル意見書

XB500 シュハツオンスタイン (ドイツの大判庭)
S16-1 104号草案 明治十九年印刷

「千八百八十六年ニ成リ 千八百八十七年ニ...
独逸語ヲ欧州 殊ニ此編ノ編者ニ回付シ (四枚回)
「該草案ハ 八百七十四條ヲ成ル」 (ニ) (六枚回)

3
同じものが本冊と込んである
XB500 とは別のもの
S16-3
「千八百八十六年ニ成リ 千八百八十七年ニ...」
「該草案ハ 八百七十四條ヲ成ル」 (ニ) (六枚回)

XB500
S16-1
A.C.

シユルツェンスタイン氏述
日本ノ民事訴訟法草案

同一のちう三部

日本ノ民事訴訟法草案 明治十九年 印刷
 伯林上等地方裁判所評定官
 千八百六十八年日本ニ國法上及ヒ社會上ノ愛
 動アルルヤ日本ハ茲ニ從來亜細亞ノ氣勢ニ制セ
 ラレタル特殊ノ發達ト断然相絶ツラ國家ト人
 民ヲ歐洲ノ文明世界ニ深結セシムルノ世運ヲ
 開キタリ是ニ於テカ又其必然ノ勢トシテ一部
 分ハ重モニ支那ノ風氣ヲ學ヒテ作リタリ成文
 律大部分ハ尚古來ノ習慣、但シ首トシテ亦支那
 ヲリ移シタル思想ニ基キ古來ノ習慣、ヨリ成
 リ立ツ旧來ノ法律狀態ニ較著ノ改革ヲ加一サ
 ルヲ得ス而シテ其改革モ亦歐洲ノ精神ヲ以テ
 之ヲ行フノ外アルヲ得サルハ論ヲ待メサルナ

XB500
 S 16

リ既ニシテ其改革ニ著手スルヤ頗フル熱心ヲ以テシタリ又之ニ従事スルニモ其改革ノ決行ハ是ヨリ先キ日本人カ強ヒテ締結セシメラレテ甚ハタ宮東ノ感ヲ有スル所ノ外國人ヲシテ日本裁判權ノ下ニ立タシメスシテ其國領事ノ裁判權ノ下ニ立タシムル國際條約ヲ廢除スルノ前ニ條件ナルカ故愈々益々堅忍ノ志ヲ以テスルヲ見ル

斯クテ今ヨリ數年ノ前既ニ刑法治罪法ヲ制定シ治罪法ノ内當分尙實施ス可カラスト思ハレタル二三ノ規定ヲ除ク外ハ千八百八十一年ヨリ皆之ヲ實施セリ而シテ右ノ刑法ハ現今又改正中ナリトス其他為替條例ノ發布アリ又巨

多ノ法律ヲ以テ或ハ一定ノ別段ノ事項ニ付キ周到ノ規定ヲ設ケ或ハ其事項ニ關スル旧來ノ法規ヲ其大體ニ於テ存留シテ之ニ變更ヲ加ヘ若クハ之ヲ補完セリ即チ抗法銀行條例取引所條例公証人規則及ヒ株式會社保險會社鐵道會社等ニ關スル各法律ハ右第一種ニ屬スルモ種ノ如クシ就中訴訟手續ニ關シテハ以テ準備書面ノ交換等ニ關スル規定ヲ新設セリ

此外民法モ亦今方ニ其編纂中ニシテ其大部分ハ既ニ其業ヲ終ハリタリ

又憲法モ同断ニシテ其成ルヤ亦司法ノ上ニ間接ノ効果ヲ及ボスノ規定ヲクンハアル可ラハ

其他尚今ヲ距ルテ遠カラサルノ前訴訟法及ヒ
裁判所構成法ヲ制定スルカタメニ各々特別ノ
委員會ヲ設ケタリ其委員ノ一部ハ歐洲殊ニ
漏西ニ議學シテ以テ其豫修ヲナセシモノナリ
トス既ニシテ其訴訟法草案ハ千八百八十六年
ニ成リ千八百八十七年ニハ其善美ノ獨逸
歐洲殊ニ此編ノ稿者ニ回村シ以テ閱覽ヲ求メ
意見ヲ徴シタリキ裁判所構成法ノ草案モ亦其
完結直キニ在リ
右ノ兩草案タルヤ獨逸現今ノ法律狀態ヲ移ス
テ隨分密ナリトス然レ凡他ノ諸草案諸法律ニ
至テハ專ハラ獨逸以外ノ法律ニ因ルモノニシ
テ其之ニ因ルヤ亦右兩草案カ獨逸ノ法律ニ因

ルニ劣ラサルナリ例ハ鐵道會社ニ關スル法
律ハ英米ヲ模範トシ公証人規則ハ和蘭及ヒ重
七ニ佛蘭西ヲ模範トシ而シテ刑法治罪法並ニ
民法草案ノ如キハ最モ佛蘭西ヲ模範トセリ蓋
シ獨逸ト佛國トノ法律上ノ事形ニハ大ニ相違
スル所之アリテ其大相違ノ一部ハ根本ノ思想
ノ相同シカラサルニモ原由シ又本實法ト訴訟
手續ノ間ニハ密着離ル可ラザルノ關係アリテ
互ニ其根基ヲ異ニスルテ能ハサルモノナリ
事ノ情狀右ノ如シトセハ訴訟法及ヒ裁判所構
成法ノ兩草案ト他ノ法律及ヒ草案トノ間ニ根
本上ノ抵觸ヲカラシムルハ誠ニ難カルヘシ
日本訴訟法草案ノ首要及ヒ包圍ノ大ナル素ヨ

リ以テ深ク注思スルニ足レリトス加フルニ獨
逸ト日本トハ其關係近年甚ハタ活潑トナリ又
愈々活潑ヲ加フルノ勢アリ殊ニ其模範ハ獨逸
ノ訴訟法^法李^法漏^法西ノ不動産強制執行法ナリトセ
ハ該草案ノ詳細就中該草案カ獨李ノ右ニ法律
ヲ取テ其規定ヲ右ニ法律カ素ト其適用ヲ期シ
タル關係ト大ニ相異ナルノ關係ニ適用スヘシ
トスルノ点何如及ヒ其ノ右ニ法律ヲ取ラザリ
シノ点之ヲ取ラスシテ自ラ設ケタル規定ノ何
如ニ關スル詳細ヲ知ルハ吾人ノタメ一般ノ利
益ナクシハハアル可ラザリナリ
抑モ該草案ハ条數八百七十四ヶ条ヨリ成ルモ
ノニシテ其ノ涉ル訴訟手續ノ總体ニ及ヒ不

動産強制執行ヲモ單々テ之ヲ規定セリ但タ婚
姻事件ノ手續(日本ハ一夫一婦ノ制ナレバ婚姻
ノ争訟ハ旧慣ニ依リ之ヲ裁判ス)禁治産事件ノ
手續(此手續ハ行政廳ノ權限内ニ屬ス)公示催告
手續及ヒ仲裁ハ裁判手續ヲ除クノ三又獨リ民事
訴訟手續ニ固有ナルノ三ナラス凡ソ訴訟手續
ニハ皆之アルヘク則チ民事刑事ノ訴訟ヲ通シ
テ齊シク其定メアルヘキ數事項ヲモ掲ケタリ
審判公行法廷取締裁判所ノ用詔訴訟記録ノ設
定具備即チ是ナリ尚本実法ニ屬スヘキ規定モ
アリ例ハ為替上ノ請求ニ對シテナシ得ヘキ
抗辯ニ關スル規定損害賠償ノ義務ニ關スル規
定ノ如キ即チ是ナリ損害賠償ノ義務ニ關スル

規定トハ例ハ債権者其強制執行ヲ停止スルハ
キ義務ヲ生スル事實存スルヲ知ルモ正時ニ
必要ノ取計セテスルヲセズタメニ損害ヲ生
セシメタル場合ニ於テ之ヲ賠償スルノ義務又
ハ債務者物若クハ債権ノ差押ヲ蒙ルリタルモ
其物若クハ債権ニ付テハ差押ノ際不在ナリシ
第三者所有權若クハ質權ヲ有スルニ直チニ之
ヲ通知ヲナスルヲセズタメニ損害ヲ生セシメ
タル場合ニ於テ之ヲ賠償スルノ義務ニ関スル
規定ヲ云フ
右八百七十四ノ条ハ又之ヲ分ケテ八篇トナス
第一裁判所第二當事者第三審判通則第四第一
審手續第五上訴第六再審手續第七特別訴訟手

続第八強制執行即チ是レナリ

第一

其裁判所ヲ治安裁判所始審裁判所扣訴院及ヒ
大審院トス此等ノ裁判所ハ治安裁判所ニ單獨
判事ヲ置クノ外皆合議裁判所ナリ
治安裁判所ハ唯第一審ノ裁判所ニシテ其権限
ハ目的物ノ價格百圓ノ上ニ出テガル財産法上
ノ請求ニ関スル諸般ノ争訟ヲ裁判ニ及ヒ尚目
的物ノ價格ニ拘ハラズ幾種ノ争訟ヲ裁判スル
ニ在リ其争訟ハ即チ我裁判所構成法第二十三
条第二ノ初メ三項ニ掲ケルモノト大要相同シ
トス官吏ハ其職務上ノ關係ニ付キ國家ニ對シ
テ起ス請求行政官廳ノ處分及ヒ官吏ノ職務上

過失若クハ誤謬ニ付キ國家ニ對シテ起ス請
求官吏ノ職務上ノ過失若クハ誤謬ニ付キ官吏
ニ對シテ起ス請求及ヒ租税ニ關スル請求ニ至
ラハ何如ナル場合ト雖ヒ治安裁判所ノ權限ニ
屬セザルナリ
其目的物ノ價格十円ノ上ニ出ラザル財産法上
ノ争訟ニ至ラハ治安裁判所ハ又同時ニ第一審
ノ裁判ヲモテスモトス是レ治安裁判所ハ第一
一審ニシテ又第二審ノ裁判所ナリトノ謂ニ非
ス唯右ノ如キ争訟ニハ扣訴ヲ許サズトノ謂ナ
ルノ三
始審裁判所ハ第一審及ヒ第二審ノ裁判所トス
而シテ第一審ノ裁判所トシテハ治安裁判所ノ

權限ニ歸セザル諸般ノ民事争訟ヲ裁判ニ及ヒ
特ニ治安裁判所ノ權限ヨリ取離ナシタル前掲
ノ争訟ヲ其目的物ノ價格ニ拘ハラス裁判ス但
シ此争訟ニシテ行政裁判所ノ權限ニ屬スルモ
ノ別段ナリ又第二審ノ裁判所トシテハ治安
裁判所ノ判決及ヒ其他ノ裁判ニ對スル扣訴抗
告ノ裁判ス
扣訴院ハ唯第二審ノ裁判所ニシテ則チ始審裁
判所ノ第一審判決ニ對スル扣訴及ヒ全裁判所
ノ裁判ニ對スル抗告ヲ裁判スルノ權限ヲ有ス
ルナリ
大審院ハ最高級ノ裁判所ニシテ扣訴院ノ判決
及ヒ其他ノ裁判ニ對スル上告抗告ヲ裁判ス又

價格十円以内、財産法上ノ争訟ニ於ケル沿革
裁判所ノ判決ニ對スル上告及ヒ始審裁判所ノ
第二審判決ニ對スル上告ヲモ裁判スル一段ハ
是レ特異ノ規定ナリ
裁判所ノ権限ヲ定ムルノ標準タル争訟目的物
ノ價格ヲ計算シ確定スルニ關シテハ我訴訟
法第三條乃至第十一條ニ於ケルト同一ノ規定
ヲ設ケタリ其相異ノ点ハ唯一ニ止マレノ三
裁判所ノ管轄ニ關スル規定ニ至ラモ亦殆ト全
ク我法ト符合セリ其相違ノ点トシテ茲ニ擧ク
ハキモノハ唯左ノ一点ノ三即チ共同訴訟人ト
シテ相借ニ訴ヘラルヘキ二名以上ノ人各々其
ノ住居スル裁判管轄區ヲ異ニスル片ハ其共同

訴訟ハ必然ノモノタルニ非サル場合トモ此以
テ差違ヒナク其ノ孰レカ一ノ裁判所ニ其諸人
ニ對スル訴訟ヲ起スヲ得ヘク上級ノ裁判所ニ於
テ其管轄裁判所ヲ定ムルカ如キトハアラサル
ナリ
其他又裁判所ノ権限及ヒ管轄ノ約定先ニ裁判
所員ノ除任及ヒ忌避回避ノ一モ其大要ハ全ク
我法ノ如シトス其ノ殊ニ異ナル所ハ左ノ數点
ノ三當事者互相ノ約定ヲ以テ沿革裁判所ニ屬
スル事件ヲ始審裁判所ニ提出スル中ハ始審裁
判所ハ同時ニ第一審及ヒ第二審ノ裁判ヲナス
其約定ハ裁判所ノ権限違ヒ若クハ管轄違ヒナ
ルトテ主張セムレテ本案ノ口頭審問ヲ受ケ以

テ黙示シテ之ヲ取結フヲ得ヘシト虽凡明示
テ其約定ヲナムノ場合ニハ書面ニテ之ヲ取結
ト本訴若クハ反訴ト共ニ之ヲ提出スルヲ要ス
忌避ノ申請大審院ノ判事ニ関スル片ハ大審院
ハ毎ニ自ラ之カ裁判ヲナシ必要ノ場合ニ於テ
司法大臣ハ本案ノ裁判ニ関係ナキ扣訴院ノ
判事ヲ命ジテ右ノ裁判ヲナムニ要用ナル員數
ヲ充タシテ故意若クハ重過失ニ因リ忌避ノ申
請ヲナス者ハ五十四以下ノ科料ニ處スト云フ
一即チ是ナリ
之ニ及ジテ第一編裁判所ノ末章タル「檢事ノ立
會ニ関スル規定ニ至テハ全ク特異ニシテ此規
定ハ則チ人ノ知ル佛蘭西ノ判規ヲ因襲シタル

ナリ即チ其規定ニ依ルニ國家府縣郡區町村社
寺若クハ人團ノ關係スル事件官吏ノ職務上ノ
過失若クハ誤謬ニ付テ官吏ニ對スル請求ノ争
訟トナリ若クハ租税ニ関スル請求ノ争訟トナ
リタル事件人事權ニ関スル事件未成年者瘋癲
人白痴人被禁治産者失踪者若クハ遺産ノ關係
スル事件管轄違ヒ權限違ヒノ抗辯起リタル事
件証書ノ真偽ヲ争フ事件又ハ再審事件ニ於テ
ハ裁判所ハ但シ治安裁判所ハ重要ノ場合ニ限
リ口頭審問ヨリ少ク凡三日前ニ其裁判所ノ檢
事ニ之カ通知ヲナシ以テ適當ト思惟スル場合
ニ其意見ヲ陳述スルノ機會ヲ與フヘシ總ヘテ
其他ノ事件ニ於テモ檢事ハ口頭審問ニ立會ハ

之メラレシ裁判所ニ於テ立會ハシテ請
スルヲ得ヘシ候事其意見ヲ陳述セシテ欲スル
片ハ口頭審問ノ終末ニ於テ發言ス候事ハ裁判
所ノ評議ニ立會フテ得ル候事ニ事件ノ通知
ヲ十廿、ル氏又其通知ヲ受ケテ候事口頭審問
ニ立會ハス若クハ立會フテ意見ヲ陳述セザル
氏當事者ハ以テ何如ナル上訴ヲモテスレテ得
サレテ蓋シ以テ等ノ規定タル實地ニ於テ困難
ヲ生スルハ免ル可ラザル所ニシテ其實地ノ困
難ハ治安裁判所候事ノ資格ヲ定ムルニ付テ殊
ニ之アルハ然ルニ其困難ノ何如ハ充分之ヲ
明ニセザリシヤ殆ト疑ハシ其他右ノ規定ニ付
テハ極メテ危疑ムヘキモノ尚之アリト人

然リ而シテ候事ヲ民事訴訟ニ參與セシムルハ
獨リ右ノ規定ノミナラズシテ其規定尚人外ニ
存スルナリ即チ管轄裁判所ヲ定ムルノ申請ヲ
上級裁判所ニ送ラザルニ及ビ判事ノ忌避ヲ裁
判スルハ先ソ書面ヲ以テ候事ノ意見ヲ尋又
ヘク又訴訟費用ノ支辨猶豫ヲ允許スルハ其允
許ヲ先許ノ要件初ヨリ具存セズ若クハ既ニ消
滅シタルヲ以テ取消スル及ビ支辨猶豫ノ先許
ヲ得タル當事者自己及ビ家族ノ又必要ナル
給養ヲ害ナハスシテ其ノ一時猶豫ヲ得タル金
額ヲ追辨スレテ得ルニ至リタル其追辨ノ義
務ヲ裁定スルハ皆受訴裁判所候事ノ任ナリト

第二編ハ訴訟能力、當事者死亡ニ若クハ訴訟能
 力ヲ喪失シ又ハ當事者未タ訴訟能力ヲ得ル
 = 其法律上代人死亡ニ若クハ其代理権絶止
 ヲルノ場合ニ於ケル手續ノ中止、共同訴訟、訴訟
 参加、訴訟代理及ヒ訴訟輔佐、訴訟費用、保証及ヒ
 訴訟費用ノ支辨猶豫ヲ規定スルモノニシテ其
 規定ヲ立ツルヤ全ク我訴訟法ノ当該規定ヲ兼
 襲シ或ハ其文字ノ儘ニ因リタルモノモ少ナシ
 トセス因テ其規定ヲ茲ニ一々掲出セズ稍々首
 要ナル差違ヲ示スニ止ルニシ其差違ハ即チ左
 ノ如シトス
 家子及ヒ有夫ノ婦ノ訴訟能力ニ関シテハ一モ

別段ノ規定ナシ
 前掲ノ場合ニ於テ手續ヲ中止シタル片ハ其相
 続人ヨリ若クハ其相続人ヲ指名シテ對手人ヨ
 リ、其法律上代人若クハ其新規ノ法律上代人ヨ
 リ若クハ其代人ヲ指名シテ對手人ヨリ手續ノ
 續行ヲ申立ツル迄ハ其中止存続スルモノニシ
 テ當事者死亡ノ場合ニ對テ人其申立ヲナス片
 ハ裁判所ハ口頭審問ノ期日ヲ定メテ其對手人
 カ指名シタル相続人ニ右申立ノ下ヲ通知ス
 キナリ然ルニ相続人其期日ニ出席セズ若クハ
 出席シタルモ其相続人タル資格ヲ自認シテ
 訴訟ヲ継
 続スルモノト見做サレハ其資格ヲ自認シテ其資
 格

ナシト論争スル中ハ本案ノ審問ヲ拒絶シテ先
ツ其資格ニ関スル審問裁判アラント申述ツ
ルノ推テリトス而シテ判決ヲ以テ其資格アリ
ト断定シタル中ハ其判決ノ確定スル迄以降ノ
手続ヲ延引スヘキナリ
二名以上ノ人ヨリ若クハ二名以上ノ人ニ對シ
テ訴ヲ起シタル場合ニハ裁判所ハ其二名以上
ノ人カ共同訴訟人トシテ相偕ニ訴ヲ起シ若ク
ハ起ガレ、一ヲ得ルノ要件具存スルヤ否ヤヲ
職權ヲ以テ査問スヘキナリ而シテ其要件具存
セサル中ハ一訴訟ヲ以テ數請求ヲ主張スル一
ヲ差止メ一若クハ二名以上ノ原告カ各別ノ
訴ヲ起スニ任スヘシ此裁判ハ之ヲ論攻スルヲ

得ス
補助参加ハ本訴ノ如クニ之ヲ取扱フヘシ但ニ準備
書面ノ交換ハ之ヲナリ、ルナリ又当事者ニ於
テ補助参加ニ異議ヲ容ル、中ハ決定ヲ以テ參
加ノ許否ニ關スル裁判ナリ、或ハ法律上取上
ク可ラサル参加ナル中ハ職權ヲ以テ之ヲ
ラ退存スルノ決定ヲナスヘキナリ此等ノ決定
ハ亦之ヲ論攻スルヲ得ス
訴訟告知ハ本案ノ裁判所ニ申請ヲ提出シテ以
テ之ヲナス其申請ニハ訴訟告知ノ理由及ヒ訴
訟ノ状況ヲ擧クルヲ要スルナリ然ル中ハ訴訟
裁判所ヨリ訴訟ノ對手人ヲモ示シテ以テ其訴

訴訟告知ノ副本ヲ其告知ヲ受クル第三者ニ送達
セシム
代言使用ノ強制ハ之アルトシ故ニ当事者若
クハ其法律上代人ハ每常自身若クハ代人ヲ以
テ訴訟ヲナストテ得ヘク又代人ト共ニ出廷ス
ルトテ得ヘキナリ代理人ニ非サル者ハ輔佐人
トシテ出廷スルヲ得ス又代理人ニ非サル者ハ
訴訟代人トシテ出廷スルヲ得ルハ受訴裁判所
ノ允許ヲ經ルヲ要シ且其允許アリタル事件ニ
限ルナリ而シテ其允許ハ第一着ノ訴訟上ノ所
為ヲ行フノ前ニ施テ先ツ之ヲ請フヘキナリ但
シ其代人トナルモ其行務ニ付キ報酬ヲ請求ス
ルヲ得ス

訴訟代理ハ委任状ヲ以テ直クニ之ヲ証明スヘ
ク其委任状ハ裁判記録ニ編入スルモノトス又
委任状ナシト雖モ口頭審問ノ期日若クハ受命
判事受託判事ノ前ニ施テ口頭ノ委任アリ之ヲ
調書ニ書キ確カメタル中ハ以テ能ク其委任状
ノ欠ヲ補フニ足ルヘキナリ
訴訟代理ハ又代人ヲ任シテ上訴ヲ起シ再審ノ訴
ヲナシ和解ヲ以テ訴訟ヲ止メ訴訟ノ目的物ヲ
放棄ニ對テ人ヲ主張スル請求ヲ美認シ及ヒ訴
訟ノ目的物若クハ對テ人ヨリ辯償スル費用ヲ
受領スルノ權ヲ包含セス
訴訟代理ノ依頼者死亡シ又ハ其訴訟能カ若ク
其法律上ノ代理權ニ異動ヲ生シタルハ訴訟

訟代理権ハ消滅スルモノトス但シ其代人ハ此
ノ如キ変動ヲ直チニ裁判所ニ届出ツルノ義務
アルナリ當事者本人ヨリ訴訟代理ノ廢罷ヲ
シ及ヒ代人ヨリ其辞退ヲナス中モ亦直チニ裁
判所ニ届出ツルヲ必要トス而シテ裁判所ハ批
等ノ場合ニハ皆訴訟ノ對手人ニ之カ通知ヲ與
フヘク對手人其通知ヲ受ケル迄ニ其代人ニ對
シテ取行フタル所為ハ皆其効力ヲ有スルナリ
又訴訟代人ニシテ死亡シ若クハ其訴訟ヲ続行
スルノ能力ヲ失フタル場合ニハ其手續ハ法律
ノ力ニ因リテ當事者本人カ或ハ自身或ハ更ニ
代人ヲ立テ、再々ヒ其訴訟ヲ続行スル迄中止
スルモノトス其ノ斯ク之ヲ続行スルカ否ニ

ハ裁判所ヨリ適當ノ期間ヲ定ムヘク其期間空
過シムルハ當事者之ヲ続行シタリト見做ス
ナリ
訴訟費用ヲ確定スルニ付テハ裁判所ニ於テ合
議裁判所ニ在テハ裁判長若クハ裁判長ノ命ヲ
受ケタル判事ニ於テ費用ノ計算ヲ査問シ以テ
其金額ヲ確定スルモノトス其確定ノ命令ハ確
定ノ申請ト共ニ必要ノ部數ヲ提出スヘキ費用
計算ノ謄本ニ添ヘテ之ヲ申請者及ヒ對手人ニ
送達スヘク其命令ニ對シテハ右當事者ヨリ七
日間ノ内ニ異議ヲ起スルヲ得其ノ異議ヲ起シ
タル片ハ裁判所ハ適當ノ場合ニハ對手人ノ陳
述ヲ聽キタル上決定ヲ以テ之ヲ裁判ス但シ口

頭審問ヲナサカ、ルナリ其次定ニ對シテハ抗告
ヲナスルヲ得
訴訟ニ於テ立ツヘキ保証ハ当事者間ニ別段ノ
合意アラサルハ受訴裁判所ノ書記ニ寄託ヲ
ナシテ以テ之ヲ行フモトス
外国人原告若クハ原告ノ参加人タルハ被告
ノ請求ニ隨ヒ其訴訟費用ニ付キ保証ヲ出スヘ
シ然レモ左ノ場合ニハ其義務ヲ有セザルナリ、
國際條約ニ交互ノ担保ナルハ、外国人ニ對シテ
日本裁判所ニ訴訟ヲ起シタルハ、外國人其訴ニ
對シテ反訴ヲナシタルハ、為替訴訟ノ片及ヒ公
ケノ催告ニ依リ訴訟ヲ起シタルハ、即チ是ナリ
訴訟費用ノ支辨猶豫ヲ允許スルハ、既ニ前文ニ

掲クルカ如ク其受訴裁判所換事ノ裁定ニ任ス
ル所ナルカ故其允許ノ申請ハ書面若クハ口頭
ヲ以テ之ヲ右換事ニ提出スヘキナリ右換事其
申請ヲ正當ト見ルハ其允許狀ヲ作りテ之ヲ其
無資力ノ當事者ニ發付シ其ノ之ヲ裁判所ニ提
出スルニ一任ス又其允許ハ再審査別ニ之ヲ與
フルニ非スシテ一々ヒ之ヲ與フルヤ其争訟中
ハ強制執行ノ際ニ至ル迄始終其効力ヲ存保シ
唯其允許ヲ與フルノ要件初ヨリ具存セス若ク
ハ既ニ消滅シタルハ判然セルノ場合ニハ何時
ニテモ之ヲ取消シ得ヘキナリ留保スルアルノ
ニ而シテ執行ノハ但ニ唯執行ノハ職權ヲ以テ
送達ノハ然レニ非ズ送達ハ職權ヲ以テ

之ヲ行フナリ其当事者ニ執達吏ヲ附スル其
執行ヲナシキ地ヲ管轄スル治安裁判所其申
請ニ依リ之ヲ許スナリ重要ノ場合ニ於テ其別
段ノ申請ニ依リ代言人ヲ附スルニ至テハ其命
又受訴裁判所ノ核事ヨリ出ツ

第三

訴訟手續ノ普通規定ヲ立テタル第三編ノ頭初
ニハ左ノ數原則ヲ掲ケタリ曰ハク判決ヲナス
裁判所ニ於テハ但シ此法律ニ口頭審問ヲナサ
ハ口頭ヲ以テス但シ此法律ニ口頭審問ヲナサ
スレテ裁判ヲ下スル規定ニタル片ハ此限ニ
在ラズ裁判ハ口頭審問ヲナサハ片トモ合
議裁判所ニ在テハ要數ノ判事ヲ以テ充タシタ

ル裁判所之ヲ發スルハ法律廷外ニ於テ訴訟ヲ指
揮スル命令ヲ發スルハ合議裁判所ニ於テハ裁
判長若クハ裁判長ノ命ヲ受ケタル判事之ヲナ
スト

又曰ハク口頭審問ハ書面ヲ以テ之ヲ準備スル
此準備書面ノ記載事項ハ大要全リ我訴訟法第
百二十一條百二十二條ニ相同シ但シ既ニ前文
ニ掲ケルカ如ク代言使用ノ強制ヲ取ラザリシ
ヲ以テ其訴訟ニ関スル我法ノ規定ハ之ヲ載セ
ザルナリ
書面ノ方式ニ関スル規定ニ至テハ頗ラニ嚴重
ニシテ又特異ナリ即チ其規定ニ依ルニ書面ハ
皆本人ノ自筆署名及ヒ捺印アルヲ要シ書面數

葉ヨリ成レハ毎葉契印ヲ施スヘシ本人自ラ
署名ヲナシ若クハ自印ヲ押捺スルヲ能ハサル
片ハ官吏ノ面前ニ於テ其書面ヲ作ル場合ノ外
ハ代人ノ書面ニ署名捺印シテ其支障ノ事由ヲ記載
スヘシ書面ハ之ニ捺削ヲ加フルヲ得ス若シ行
間若クハ欄外ニ文字ヲ挿入シ或ハ文字ヲ塗抹
ズル片ハ其場所ニ其字數ヲ掲ケテ捺印スヘシ
文字ヲ塗抹スルニハ其字体ノ尚明瞭ニ讀ミ得
ルキ様塗抹スヘキナリ
書面ハ其附屬書類及ヒ對手人ニ交付スルカ
キニ必要ナル膽本ト共ニ當事者之ヲ裁判所
書記ニ差出スル可ナリトス其書面裁判所ニ到達
郵送スルモ可ナリトス其書面裁判所ニ到達シ

タル片ハ書記ハ直ニ其到達ノ時日及ヒ附屬
書類等ノ部數ヲ之ニ附記シテ捺印ス
口頭審問ノ準備ノ用ニ供スル書面ノ記載事項
及ヒ方式ニ関スル規定凡ソ右ノ如シトス此規
定ハ訴訟ニ関シテ當事者若クハ當事者外ノ人
ヨリ裁判所ニ提出スル申請書陳述書通知書具
告書等ニモ相当ニ適用スヘキナリ又口頭ヲ以
テ其申請等ヲナストシテ其訴訟法ニ許シタル場
合ニ於テハ書記其本人ノ費用ヲ以テ之ヲ調書
ニ記載スヘキナリ
口頭審問ニ関シテハ我訴訟法第百二十七條ノ
規定ヲ文字ノ供移用セリ而シテ尚規定シテ曰
ハク凡ソ口頭審問ニ提リテ發スル裁判ハ之カ

言渡ヲナスヲ要ス他ノ裁判ハ其正本ヲ作リラ
之ヲ当事者ニ送達スルハ裁判第三者ニ関係ヲ
有シテ第三者其言渡ノ際ニ在席セザルハ之
力言渡ヲナスノ外尚其正本ヲ作リテ第三者ニ
送達スルニ第三者ハ尚其言渡ノ際ニ在席シタ
ルハト雖モ其正本ヲ請求スルノ権ヲ有スト
次ニ手續審判ノ公行及ヒ法廷取締ニ関スル規
定并ニ裁判所ノ用語ニ関スル規定ヨリ其大要
皆我裁判所構制法第百七十九條乃至第百九十
三條ノ如トス而シテ法廷ニ於テ不敬ノ所為
ル者ハ常人ナル中ハ二十日以下代官ナラズ
ハ五十日以下ノ科料ニ處ス通事若クハ聾者
者モ其署名ニ捺印スルキナリ

又其次ニハ送達先ニ日期間及ヒ日期間ヲ
怠リタルハ結果ニ関スル規定アリ是レ亦在
我法ノ如シトス故ニ又稍々重要ノ差違ヲ示
= 止ムハ郵便ヲ以テスルヤ又當事者ヨリ行
フ送達ハ郵便ヲ以テスルヤ必ズヤ書記其職
執達吏ニ送達ノ依頼ヲナシ若クハ其裁判所
管轄區外ニ送達ヲナス場合ニハ其送達地ヲ
轄スル沿安裁判所ノ書記ニ其依頼ヲ囑託ス
キナリ其送達ヲ終ハリタル上ハ送達証書ヲ
訟記録ニ編入スルニ在リ
訴訟裁判所所在地ニ住居セザル當事者ハ當
對中人ノ申立裁判所ノ命令アル中ニ送達代

受者ヲ置クヲ要スルノミナラズ送達書類ヲ受
領スルカタメニハ其申立其命令ナシト雖凡必
ス右ノ所在地内ニ住居スル第三者ノ許ニ其住
居ヲ定メテ之ヲ裁判所ニ届出ツルノ義務アリ
トス然ラズンハ進テ其届出アル迄ハ之ニ送達
ムヘキ書類ハ毎ニ裁判所ノ揭示板ニ揭示シ以
テ其送達ヲ行フタルモトナスナリ其揭示ニ
付テハ訴訟記録ノ中ニ憑憑ヲ留ムヘシ(佛法ヲ
模倣セシ此送達上ノ住所ノ以降ノ適用ニ関シ
テハ尚後文ニ述フル所アルヘシ)
当事者訴訟代人ヲ立テ、其代人其委任ノ趣旨
ニ依リ当事者ヲ代理スルノ權アル片ハ其代人
ニ送達ヲ行フナリ

家主若クハ賃賃人ニ對スル代受送達ノ制ハ之
ヲ採用セザリキ
送達ノ名宛人若クハ送達ヲ代受ニ得ヘキ者見
当ラサルヲ以テ送達ヲ行フ一能ハサル場合ニ
ハ執達夫ハ其書類ヲ戸長若クハ區長ニ交付シ
戸長區長ハ送達書ノ受領ノ却ニ捺印シテ其書
類ヲ受取人ニ渡スカタメ相当ノ勞ヲ執ル
治外法權ヲ有スル人ニ送達ヲナシ外國ニ於テ
送達ヲナシ及ヒ通常ノ兵營外ニ屯駐スル軍隊
若クハ艦装シタル軍艦ニ屬スル者ニ送達ヲナ
スニ付テハ裁判所ヨリ成規ノ事務手續ヲ踐テ
司法大臣ニ報告ヲ提出シ司法大臣ヨリ必要ノ
囑託書ヲ發スルナリ

公示送達ハ其ノ送達スヘキ書類ノ抄本ヲ裁判
所ノ掲示板ニ掲示シ及ヒ尚裁判所ノ思量ニ因
リテハ之ヲ新聞ニ廣告シテ以テ之ヲ行フナリ
而シテ第一回ノ公示送達ハ之ヲ掲示板ニ掲示
シ若クハ新聞ニ廣告シタルヨリ十四日ヲ経過
スル中ハ之ヲ行フタルモトナシ同一ノ事件
ニ関スル其以後ノ公示送達ハ都一テ之ヲ掲示
板ニ掲示スルヲ以テ直チニ之ヲ行フタルモ
トナス
期日期間ニ関スル規定ノ中ニハ当事者ヨリ行
フ呼出、代官訴訟及ヒ当事者ヨリ行フ送達ト相
連係スルノ規定ハ都一テ之ヲ欠ケリ其他裁判
所ノ休暇ト相連係スルノ規定ヲモ存セス是レ

亦裁判所ノ休暇ニ関スルノ規定アラサルヲ以
テナリ
期日期間ヲ定ムルニハ当事者ヲシテ審問ヲ受
クルニ適當ノ準備ヲナシ且判事ノ指命ニ應シ
得ヘキ時間ヲ得セシムルヲ要スルナリ而シテ
此呼出期間及ヒ法定裁定ノ期間ヲ算スルニ當
リテハ裁判所ノ所在地外ニ住居スル人ノタメ
ニハ其ノ所在地ニ来ルカタメ若クハ其ノ陳述
ヲ裁判所ニ致スカタメニ要スル時日ヲ除テ之
ヲ算スヘク其算除方即チ陸路ハ八里ヲ以テ一
日程八里未滿ト雖モ三里以上ナルハ亦一日
程トシ水路ハ四里ヲ以テ陸路ノ八里ニ準スル
ナリ但シ外國ニ向テ呼出ヲナス場合ニハ裁判

所ノ思量ヲ以テ事状ニ應ジ其算除ス一キ路程
日數ヲ定ムルモノトス
緊急期間ノ遲滯ニ對スル旧状回復ノ制規ハ之
ヲ採用セズ之ヲ採用セズシテ辨償命令ニ對ス
ル異議控訴上告故障抗告及ヒ再審ノ訴ノ如キ
孰レモ期間ニ拘束セラル、法助手段ニ関シテ
一々異常ノ救助方ヲ立テラレタリ此点ハ尚後
文ニ於テ述フヘシ然レモ其以下ノ全ク同様ナ
ル場合一ヲ遺過シタルヲ憾ムナリ即チ上告ノ
受理不受理ニ関シテハ上告人ヲ呼出シテ前審
問ヲ開キ以テ別ニ裁判ヲナシ上告人ノ力期日
ニ出席セサルハ上告ヲ顛下ケタルモト見
做スナリ然ルニ此遲滯ニ對シテハ天災其他避

ク可ラサル偶然ノ出来事ノタメニ然リシ場合
ト虽モ亦救助ヲ許スナシ
第三編ノ末章ヲ訴訟記録ノ外制ニ関スル二三
零碎ノ規定ト人然レモ大體ニ於テハ尚本團ノ
法規ト相符合ヒリ而シテ尚敷規定アリ曰ハク裁
判所若クハ其官吏ノ作リルハキ調書裁判書及
ヒ其他ノ書類並ニ其正本謄本及ヒ抄本ニハ年
月日場所裁判所ノ印章及ヒ其官吏ノ署名捺印
ヲ具フヘシ若シ裁判所ノ印章ノ押捺ムルニ能
ハサルハ其支障ノ事由ヲ掲クハシ毎葉ノ契
印文字ノ捺印捺入及ヒ塗抹ニ関シテハ準備書
面ト同一ノ規定ニ因ルト
又曰ハク裁判所ニ提出シタル書面若クハ書類

又ハ調書裁判書ノ正本若リハ謄本ヲ所持スル
當事者ハ裁判所ノ求メニ應シ之ヲ差出スノ義
務アリトス若シ之ヲ拒ミタルハ或拾圓以下
代官人ハ五拾圓以下ノ料料ニ處スト
其他又我訴訟法第二百七十一條ヲ襲用シテ之
ニ附スルニ(當事者ハ)裁判所ノ允許ヲ得タル止
訴訟記録ヲ閲覧スルヲ得トノ程限ヲ以テセ
リ

第四

第四編ノ第一審手續ニ於ケルヤ我訴訟法ト同
ク先ツ第一段ニ始審裁判所ニ関シテ又唯始審
裁判所ニ関シテノニ周到ノ規定ヲ立テ次ニ治
安裁判所ノ通常手續ニ関シテハ獨リ其特別ノ

点ヲ掲規セリ
甲○始審裁判所ニ於ケル其手續ハ之ヲ分ツ左
ノ如シ口頭審問ニ至ル迄ノ手續、口頭審問、證據
採收、判決、及ヒ遲滯判決即ケ是ナリ而シテ證據
採收ハ又之ヲ分ツテ其普通規定各種ノ證據方
法及ヒ證據保全ノ三日トス
其一○其手續ノ採行方ニ至テハ私操行(ハルリタイ)ニ
非ス官操行(カウソウ)ニシテ即ケ中止ノ手續ヲ再々
ニ施行スルノ方法補助參加及ヒ訴訟告知ノ提
出ニ関スル前掲ノ規定ニ於テ既ニ然ル如シト
ス是故ニ訴ハ訴狀ヲ裁判所ニ提出シテ以テ之
ヲ提起スヘキナリ訴狀ノ記載事項ハ我訴訟法
第二百三十條ニ定ムルカ如シトス其他確定ノ

訴^(ノエトクテ)ハ全ク我訴訟法第二百三十一條ノ如ク事件ノ合訴^(ヲアケケテ)モ亦我訴訟法第二百三十二條第一項ノ如クニ之ヲ許シタリ但々事件ノ合訴ニ関シテハ請求ノ種類相同シカラスニテ其原因亦主要ノ牽連ヲ有セサルモノハ之ヲ合訴スルヲ得スト云フ程限アリ

之ニ次テ訴状若シ双方ノ當事者争訟ノ目的物原告ノ請求ノ因テ起ル事實及ヒ一定ノ申立ヲ掲ケサル場合ニハ訴訟ヲ指揮スル命令ヲ以テ原告ニ其欠缺ヲ補全スルヲ余スヘク原告之ヲ補全セサルキハ其訴ヲ却下スヘシトノ規定アリ是レ亦手續ノ探行ヲ官探行ト定メタルヨリ生スルノ結果ニシテ裁判所カ共同訴訟及ヒ

補助参加ノ法律上受理スヘキモノナルヤ否ヤヲ査閱スヘキ前掲ノ義務ト相符合セリ

訴ヲ送達スルキハ事件ノ拘束茲ニ成リ我訴訟法第二百三十五條及ヒ第二百四十條ニ定ムルカ如キ効果ヲ生スルナリ

既ニ起シタル訴ノ願下ケハ口頭審問ノ際ニ其陳述ヲナスニ非サレハ裁判所ニ書面ヲ提出シテ以テ之ヲナスモノニシテ若シ被告ノ承諾ヲ要スルキハ其承諾ヲモ書面ニ添付スヘキナリ

既ニ訴ヲ送達シタル場合ニ至テハ裁判所ヨリ其書面ノ副本ヲ被告ニ送達ス其他ハ皆我法ト相同シ

成規ニ適ヘル訴状ノ副本ハ十四日内ニ若シ外

呼出スナリ而シテ其日取ハ呼出ノ送達ト期日
トノ間ニ七日以上ノ期間アルヲ必要トス外國
ニ送達ヲナス場合ニハ事状ニ隨ヒ其期間ヲ定
ムヘシ
準備書面交換ノ期間ハ當事者ノ申立ニ依リ裁
判長ノ別段ノ命令ヲ以テ適宜之ヲ延長スル
ヲ得又毎書面ニ付キ三日間迄ニ之ヲ短縮スル
トヲ得ルモノトス
急速ノ事件ニ於テハ當事者ノ申立ニ依リ起訴
以後ノ書面交換ヲ行ハスニテ口頭審問ノ期日
ヲ開リヲ得ハキナリ七日ノ呼出期間ニ至テハ
此場合ニ於テモ亦本来之ニ抑ルハキモノナレ
凡切迫ノ危険アルキハ別段ノ命令ヲ以テ之ヲ

其副本ヲ原告ニ送達ス而シテ答弁書ニ抗弁若
クハ反訴ノ掲グル場合ニハ原告ハ七日内ニ再
訴状ヲ提出スルヲ得ヘク再訴状到達シタル日
ハ其副本ヲ被告ニ送達ス再訴状ニシテ真正ノ
再訴若クハ反訴ニ對スル抗弁ヲ掲グルキハ被
告ハ七日内ニ再答弁書ヲ提出スルヲ得ハキナ
リ再答弁書ヲ送達シタル上ハ又準備書面ノ交
換ヲ許サハルモノトス再訴状及ヒ再答弁書ニ
關シテハ訴状及ヒ答弁書ニ關スル規定ヲ相應
ニ適用スハキナリ
準備書面ノ交換既ニ終リ又ハ準備書面ノ提出
ノ放棄アリ若クハ其期間既ニ経過シタル日ハ
直ニ口頭審問ノ期日ヲ定メテ當事者双方ヲ

國ニ送達ヲナス場合ニハ事状ニ隨ヒ定メタル
期間内ニ答弁書ヲ差出スヘシトノ催告ヲ之ニ
附シテ裁判所ヨリ被告ニ送達スヘキナリ此答
弁書ハ準備書面ニ関スル普通規定ニ依リテ之
ヲ作り原告ノ請求ニ對スル陳述被告カ提起ス
ル不服ノ理由トナルヘキ事實證據方法及ヒ一
定ノ申立ヲ掲クルヲ必要トス尚規定スルニ訴
ニ付キ設ケタル所ノ確定ノ訴及ヒ合訴ヲナシ
得ヘキト訴訟ヲ指揮スルノ余令ヲ以テ却下ヲ
大ス一及ヒ事件ノ拘束願下ノ一ニ関スル規定
ハ答弁書モ亦之ヲ相應ニ適用スヘシト云フヲ
以テセリ
成規ニ適ヘル答弁書裁判所ニ到達シタルハ

二十四時間迄ニ短縮スルヲ得

其二〇口頭審問ニ関シテハ先ツ我訴訟法第百

二十八條第一項乃至第三項第百二十九條第百

三十條第一項第二項及ヒ第百三十一條ノ規定

襲用シタル上尚左ノ如ク規定セリ、陪席判事ハ

裁判長ノ許可ヲ經テ當事者ニ對シ我カ問ハシ

ト欲スル所ヲ問フ一ヲ得當事者ハ對手人ニ對

シテ自ラ問フナスヲ得先ツ裁判長ニ其申立

ヲナシ裁判長ヲシテ其問ヲナサシムヘシ當事

者問ハルモ答ハス若クハ之ニ確答セサルモ

ハ對手人ノ利益トナルヘキ答ヲナシタルモノ

ト見做ス一ヲ得ト

妨訴ノ抗弁ハ我訴訟法第百四十七條及ヒ第

二百四十八條ト同様ノ規定ニ依リテ之ヲナシ
得ヘキナリ唯其ノ異ナル所ハ其抗弁ニ関シテ
特ニ先ツ審問裁判ヲナスニハ毎ニ被告ノ申立
之アルハ其抗弁證據ヲ要スルモナリ且ハ
直ニ之ヲ疏明スヘシ口頭審問ヲ始メタル後
ニ至リテハ被告ノ人決シテ其抗弁ヲ起スヲ得ス
裁判所ハ被告ノ故意ニ訴訟ヲ延滞セシムル
ヲ防カンカクシテ申立ニ依リ本案ノ審問ヲ余
ルノ權ヲ自由ノ思量ヲ以テ行用ス但シ本案ノ
判決ヲ發スルハ必スヤ右抗弁ノ判決確定シタ
後ヲルヘシ本案ニ関シテ先キニ既ニ準備書面
ノ交換ヲナシタルハ又更ニ之ヲ余スルナ
シトスルノ數點トス

又攻撃及ビ保護ノ方法並ニ證據方法證據抗弁
ニ関シテモ同ク我訴訟法第二百五十一條第二
百五十二條及ビ第二百五十六條ノ如クニ規定
ヲ立テ且右第二百五十二條ノ規定ヲ以テ攻
方法證據抗弁方法及ビ證據抗弁ノ上ニ延及セ
シタルリ然レ他ノ一方ニハ又左ノ決シテ輕カラ
サル制限ノ設ケアリ即チ反對ノ請求ハ相殺ノ
ヲナシニ於テト反訴ヲ以テスルトナリ同ハス
唯答ニ於テハ原告ノ請求若クハ原告ノ請求ニ對シ
テ提出スル抗弁ト法律上相牽連スルモノニ非
サレハ復タ之ヲ主張スルヲ得ス然レモ準備書
面ノ交換ヲナサ、リ、片ハ不牽連ノ反對請求

ト虽モ被告ハ相殺ノタメ若クハ反訴ヲ以テ本
案口頭審問ノ終結迄ニ之ヲ提出スルノ義アリ
トス反対請求ニ関スル右規定ノ外ハ書面ノ提
出ナキモ本案ニ関シテ權利上ノ不利益ヲ生セ
スト虽モ當事者若シ先キ書面ヲ以テナスハ
カリシ申立若クハ事實ノ主張ヲ口頭審問ノ際
始テ提出シテ相手人其準備ヲ欠リカクメニ之
ニ對シテ陳述ヲナスコトヲ得ヌタメニ審問ヲ延
期スルノ必要ヲ生シタル中ハ之カタメニ生シ
タル費用ヲ其遲滞ノ責アル當事者ニ課ス因テ
當事者若シ先キ書面ニ掲ケサリシ申立若ク
ハ事實ノ主張ノ對手人先ツ穿索ヲナスニ非サ
レハ之ニ對シテ陳述スルコト能ハサルヘシト思

ハル、モノヲ提出セント欲スルハ準備書面
ヲ以テ口頭審問ニ先ツテ少クモ三日前ニ對
手人カ其副本ノ送達ヲ受クハキ様速ニ之ヲ裁
判所ニ提出シ以テ右ノ不利益ヲ避クハシト
其他我訴訟法第二百五十四條及ヒ第二百五十
五條第一項ノ規定ヲ移用シ次ニ一般ニ左ノ如
ク定メタリ即ケ當事者口頭審問中ニ行ハキ
訴訟上ノ所為ヲ其審問中ニ行ハサルハ復々
之ヲ行フヲ得ヌ此權利上ノ不利益ハ口頭審問
ノ終結ト共ニ自然ニ出來スト
次ニ裁判所ニ與フルニ亦我訴訟法第二百六十
八條及ヒ第四百三十八條乃至第四百四十三條ニ於
テ之ニ與ヘタル權利ヲ以テシ附人ルニ左ノ程

限ヲ以テセリ即チ勸解ニ不参シタル當事者ニ
ハタメニ無用ニ属シタル其期日ノ費用ヲ負ハ
シムベシ犯罪ノ嫌疑アル片ハ審問ヲ延引人へ
シ審問ヲ延引スルノ命令ニ對シテハ又唯此余
令ニ對シテノ抗告ヲ為スルヲ得相當ノ演述
ヲナスノ能力欠缺スルカタノ以降ノ演述ヲ差
止メタル當事者ニハ新期日ヲ定ムルト同時ニ
自己ノタメ訴訟代人ヲ立ツハキト余ス、シ
當事者此余ニ從ハサル片ハ之ニ對シテ其適意
ニ自ラ退廷シタルト同断ノ取計ヲ請求ニ依リ
ナストテ得テ代理人ト亦其用ヲ十
サ、ルノ故ヲ以テ之ヲ退斥スルトテ得之ヲ退
斥シタル片ハ更ニ期日ヲ定メテ其期日ハノ呼

出ヲナスノ際當事者ニ其退斥ノ決定ヲ送達ス
ヘク其呼出ニハ又代理人ニ非サル代人ハ以後
之ヲ許サ、ルトテ開示スルトテ得ト
次テ原告其請求ヲ放棄シ被告原告ノ請求ヲ或
ハ裁判所ニ於テ或ハ書面ヲ以テ是認シタル片
ハ其争訟ハ何如ナル状況ニ在ルヲ問ハス終結
ス但シ其對手人ハ放棄ノ場合ニハ即時却下ヲ
テサ、ントテ申立テ是認ノ場合ニハ即時勝訴ノ
判決ヲ與ヘラレ、トテ申立ツルトテ得ト定メ
ル後我訴訟法第百四十五條第百四十六條第
百四十八條第百四十九條第百五十條及
己第百五十一條ノ規定ヲ掲出セリ勿論其中ニ
ハ二三ノ差違アル氏其差違ハ他ノ規定ヨリシ

テ自然ニ生スルモノニ非サレハ則テ重要ニ非
サルモ、タルノミ、
三〇「不證」極方法ノ種類ヲ證人鑑定人證書檢證
及シ當事者ノ自證ニ分ケ以テ之ヲ明許シタル
其前ニ掲クル證極採收ノ通則ニハ其發端トシ
テ左ノ數規定アリ曰ハク各當事者ハ其攻撃若
クハ兼護ノ方法ノ理由トスル事實ニ関シテ舉
證ノ義務アリトス原告ハ其ノ提起シタル請求
ノ成立スルニ必要ナル事實被告ハ其請求ノ成
立ヲ妨ケタル事實若クハ其請求ノ成立ハ之ヲ
リシモ次テ再々之廢滅シ無効ニ屬シ若クハ制
限ヲ生シタル事實ヲ證明ス、シ其他各當事者
ハ其以降ノ攻撃若クハ兼護ノ方法ノ重要ナル

理由トナル事實ヲ同様ニ證明ス、シ事實ヲ證
明若クハ辯誤ハ其ノ證明ス、キ事實ノ眞實ナ
ル、若クハ不眞實ナルヲ因リテ以テ推明シ
得、キ他ノ事實ヲ明瞭シテ以テ之ヲナム、
得ト
次テ我訴訟法第百五十九條乃至第百六十
四條及ヒ第百六十六條ノ規定アリ然レモ其
中判事カ心證ヲ得タル所以ノ理由ヲ判決ニ掲
クル、損害若クハ利益ヲ舉證人ニ於テ評價ス
ル、及ビ宜誓ヲ推付スル、ニ関スルモノハ之
ヲ省キ宜誓シテ評價ヲナサシムル、ニ代ヘテ
裁判所ニ典フルニ其當事者自身ト虽氏之ヲ證
人トシテ證人ニ関スル普通規定ニ依リ職權ヲ

以テ之ヲ尋問ニ而カモ之ヲ尋問スルニ他ノ証
據採收ノ申立アリタルト否トニ相関セズシテ
之ヲナストテ得ルノ權ヲ以テセリ尚書面ヲ以
テ若クハ他ノ筆認ニ於テナシタル自白若クハ
裁判外ノ自白ノ効力ハ之ヲ判事ノ裁断ニ委ス
トノ定メモ之アリトス又疏明スヘキ主張ノ真
実ナルトテ宣誓ヲ以テ確保シ得セシムルトニ
代フルニ証人トシテ其主張ノ真実ヲ尋問スル
ヲ得ルトテ以テセリ
裁判所ハ當事者ノ指定シタル証據方法外ニ出
テ職權ヲ以テ其筆認ヲ審閱スルノ權アラサル
ナリ但シ左記ノ場合ハ之ヲ例外ニ置ケリ(三)事
外國ノ現行法内國ノ地方習慣法商業習慣若ク

ハ町村ノ定規其他人團ノ申合規則ニ関スルモ
裁判所其問題ニ係ル原則ヲ知ラサルハ當事
者ノ申立ナシト虽モ必要ノ調査ヲナストテ得
(三)事ノ状況他ノ方法ヲ以テ明ニス可ラサルニ
於テハ裁判所ハ職權ヲ以テ換証若クハ鑑定ヲ
命シ又當事者ヲ証人トシテ尋問スルトテ得ト
定メタルト即チ是ナリ
証據採收ニ至テハ我訴訟法第三百二十條ノ規
定ヲ襲用セリ但シ他ノ裁判所ト云フテ治安裁
判所ト改メタリ
當事者ハ何如程其ノ指定シタル証據ヲ擧クヘ
キヤ是レ裁判所ノ定ムル所トス証據ノ採收若
シ當事者演述ノ後直チニ之ヲ行フヲ得ス則チ

或ハ新期日ニ訴訟裁判所ニ於テ或ハ受命判事
若クハ受託判事ノ之ヲ行フ場合ニハ證據採收
ノ決定ヲ以テ之ヲ命スヘキナリ
其決定ノ記載事項ハ我訴訟法第三百二十四條
ニ定メタルカ如シトス但シ宣誓ノ式詞ニ關ス
ル一目ハ之ヲ存セス其決定ノ之ヲ論攻スルヲ
得ス又其決定ハ職權ヲ以テ之ヲ結了スヘキナ
リ
受命判事若クハ受託判事ノ證據採收ハ之ヲ公
行セサルナリ但シ當事者ニハ其證據採收ノ期
日ヲ通知スヘク而シテ當事者ノ一方若クハ雙
方不参スルアリ比事状ニ於テナシ得ル限リハ
尚其證據採收ヲ行フナリ又其際ニ異論出テ受

命判事若クハ受託判事ノ之ヲ決着スルノ權アリ
スニハ其異論ノ裁判ハ之ヲ受訴裁判所ニ任カ
スヘク其證據採收ニ至テハ其異論ノ裁判何如
ニ因ルヘキモノ、外ハ尚之ヲ續行ス其證據採
收ニ於テノ審問ニ關スル調書ハ該判事ノ之ヲ其
元本ヲ以テ受訴裁判所ニ交付シ若クハ送付ス
ルモノトス然ル中ハ受訴裁判所ヨリ當事者ニ
通知ヲナスヘキナリ
外國ニ於テ行ヘキ證據採收ハ其外國ノ所管
廳若クハ其外國駐在ノ公使領事ニ囑託シテ以
テ之ヲ行フナリ其囑託書ニ關シテハ外國ノ
送達ニ關スル規定ヲ相應ニ適用ス
證據採收ニ關スル普通規定ハ我訴訟法第三百

二十一條ノ旨意ヲ襲用シタル上左ノ規定ヲ掲
ケテ以テ終結セリ
証拠採收ノ結果ニ関シテハ受訴裁判所ニ於テ
當事者ヲ口頭審問ス此審問ハ受訴裁判所ニ於
テ証拠採收ヲ了シタル場合ニハ其証拠採收ノ
後直々ニ之ヲナスヘキナリ但シ更ニ其期日ヲ
開ク一ノ適當ト思惟スル片ハ此限ニ在ラズ受
命判事若クハ受託判事ノ証拠採收ヲ了シタル
場合ニハ其証拠採收ニ関スル調書ノ裁判所ニ
到達シタル上其口頭審問ノ期日ヲ開クヘシ
當事者ノ一方右審問ノ期日ニ不参シタル場合
ニハ出廷シタル當事者ノ申立ニ依リ其レ迄ノ
審問ノ結果ト其當事者ノ演述ニ從テ裁判ヲ下

スナリ此場合ニ於テ若シ其ノ出廷シタル當事
者ヨリ新々ナル提舉ヲナス片ハ不参ノ當事者
ニ對シテ取計ノ一猶出廷シテ審問ヲ受ケタル
ニ其對手人ノ提舉ニ對シテ陳述ヲセズ若クハ
之ヲ拒ミタル當事者ニ對スルカ如クナル一キ
ナリ當事者一シテ若シ双方共不参シタル場合
ニハ九ノ口頭審問ノ期日ニ双方共不参シタル
場合ニ付キ定メタル規定ヲ相應ニ適用スルモ
ノトス此規定ハ之ヲ後文ニ示スヘシ
其裁判ヲナスニ付テハ裁判所ハ証拠採收ノ決
定ノ旨意ニ拘束セラレ、一ナシ

證據採取ヲナシタルモ其事件未タ裁判ヲ下ス
 追ニ熟ヒスト思惟スルハ裁判所ハ証採採取
 補完ヲ決定スルヲ得ルモ裁判所ハ証採採取
 者ノ不参シタルカタメニ證採採取ノ一部若ク
 ハ全部ヲ行フノ能ハカリシ場合ニハタメニ其
 手續ノ遅延スル前期日ニ出頭スルハ舉證者其過失ニ
 非ラズルニテ前期日ニ出頭スルニ依リ其追行若クハ
 追備ヲナシ得ハ於テハ申立ニ依リ其追行若クハ
 裁判所ハ適當ノ期間ヲ定メ以テ証採採取ノ費
 用ヲ豫納スルキトノ當事者ニ命スルニ此命令
 ハ之ヲ論致スルヲ得ス此命令ニ従ハルハ其
 其証採採取ヲ行ハス

其各種ノ証採採取方法ノ中先ツ証言ニ関シテハ
 其義務呼出及ヒ不参ノ結果ハ大要我法ニ定ム
 ルカ如クトシ其不参ノ罰トシテハ二十四以下
 ノ材料ノ材料人トシテハ又皇族及ヒ勅任官ノ証言
 ヲナスヘキ場合ニハ受命判事若クハ受託判事
 其居所ニ就テ之ヲ尋問ス
 証言ヲ拒ムトテ得ルハ左ノ如シ(一)刑法第百十
 四條第百十五條ニ定ムタル當事者ノ親族(三)當
 事者ノ後見ヲ受クル人(三)當事者ノ僕婢其他當
 事者ニ勤仕シテ其家ニ屬スル人(四)官吏若クハ
 先キニ官吏タリシ者ハ其職務秘默ノ義務ヲ守
 ルキ事状ニ付(五)醫師藥劑總婆代言人公証
 人若クハ教導職ハ其職務身分若クハ生業ノ為

ノニ信託ヲ受ケタルニ因リ知リ得タル秘密ノ
事實ニ付(六)自己若クハ親族ノ恥辱トナリ若ク
ハ其刑事訴追ヲ招クノ恐アル事實ニ付(七)自
己若クハ親族ニ直接ナル財産法上ノ損害ヲ來
タスヘキ事實ニ付(八)技術若クハ生業ノ機密
ヲ洩ラスニ非サレハ供述ヲナスニ能ハルハ
即チ是ナリ但シ右ノ二及ヒ七ニ関シテハ我訴
訟法第百十條上同條ノ例外アリ又左
ニハ受訴裁判所ハ當事者ニ尋問ヲナシタル上
決定ヲ以テ其拒絶ニ関スル裁判ヲナスヘキ
由ノ正實ナルトナリ宜哲ヲ以テ確保スルノ命

令スルヲ得若シ一方ノ當事者不参シタル場合
ニハ事ノ状況ニ依リ又出庭シタル當事者ノ提
舉ヲモ顧慮シテ其決定ヲ下スナリ其決定ニ對
シテハ舉証者及ヒ証人ハ七日以内ニ抗告ヲナ
スノ權アリトス抗告ハ停止ノ効力ヲ有スル
ナリ又証人其証言ヲ拒絶スルモ其理由ヲ示ス
ナク若クハ其示シタル理由終局ノ棄斥ヲ受ケ
タルニ尚其言ヲ拒絶スルハ申立ヲ要セスシ
テ証人ニ對シ其拒絶アリタルカ為メニ生シタ
ル費用賠償ノ義務ヲ負ハシメ且四十四以下ノ
科料ヲ科スルノ決定ヲ發スニ此決定ニ對シ
テハ証人ヨリ七日以内ニ抗告ヲナスヲ得此
抗告モ亦停止ノ効力アルモノトス軍人ニ對シ

右ノ科罰ヲ確定シ且執行スルニハ其等級ノ
高下ヲ問ハス軍事裁判所ニ囑託シテ之ヲ
キテリ其他証人充分ノ理由ヲ示サズシテ
出頭セズ若クハ其理由ヲ示サズシテ証言
ナスヲ拒絶シ若クハ其理由ヲ示サズシテ
受ケタルニ尚其証言ヲ拒絶スル片ハ
別段ノ訴ヲ以テ其タメニ生シタル損害ノ
償ヲ請求スルヲ得然ル片ハ反對ノ証言
ハ証人ハ其証言ニ事案ヲ証言シ得ハカリ
レト見做スナリ拒絶ノミナラス又証人宣誓
右ノ規定ハ証言ノ拒絶ノミナラス又証人宣誓
ヲ拒絶スルニモ之ヲ用ルニ非スレテ愛憎畏懼ノ心ナ
呼称絶ニモ之ヲ用ルニ非スレテ愛憎畏懼ノ心ナ

全ク正實ニ供述ヲナスヘシ若クハナシタリ
ト云フニ在リトス但シ豫メ偽証ノ罰アルヲ
示諭スルヲ之アルナリ
証人宣誓ヲナシムルノ時及ヒ事實参考ノタ
メニ尋問ヲナシムルノ時及ヒ其規定我訴訟法
第三百五十六條第一項及ヒ第三百五十八條
第一項及ヒ第三百五十八條第十乃至第三
於ケルカ如シトス
次ニ尚我訴訟法第三百五十九條乃至第三百六
十一條第二項ノ規定ヲ寫シ出シタル上又証人
ハ寫按テ朗讀シ若クハ其他ノ書キ物ヲ參着シ
テ以テ供述ヲナスヲ得スト規定セリ則チ必ス
ヤ記臆ニ依リテ悉ク供述ヲ尽スヘク然ル上ニテ

始メテ書類ヲ閲覧シテ其供述ヲ補充シ正誤ス
ルヲ許スナリ但シ數字ニ関スル供述ヲナスノ
場合ニ至ラハ初ヨリ直チニ書類ヲ用フルヲ
得
陪席判事ハ裁判長ノ許可ヲ得テ証人ニ對シ問
ヲ發スルヲ得當事者ハ証人ニ對スル尋問ヲ
中止スルヲ得又証人ニ對シテ自ラ問ヲナス
ヲ得ス則チ事狀ヲ明ニスルカタメニ有益ナリ
ト思惟スルノ問ヲナサント欲スル中ハ其問ヲ
發セラレシトテ裁判長ニ申立ツヘキナリ其問
ノ許否ニ関シテ疑アル中ハ裁判所直チニ之ヲ
裁判ス
証人ノ供述ハ之ヲ詳密ニ調書ニ記載スヘキナ
リ且宣誓セシメテ之ヲ尋問シタルヤ否ヤ其宣
誓ハ尋問ノ前ナリシヤ將々後ナリシヤヲ明記
スルヲ要ム其尋問及ヒ宣誓若クハ不宣誓ノ一
ニ関スル調書ノ部令ハ書記之ヲ証人ニ讀聞カ
シ若クハ視閲セシムヘシ証人ハ其際変更及ヒ
追補ヲナサントテ請求スルヲ得其変更若ク
ハ追補ハ書記之ヲ証人ヨリ其請求アリタル
ヲ附記シテ調書ノ末尾若クハ欄外ニ記載スヘ
ク又同シク之ヲ証人ニ讀聞カシ若クハ視閲セ
シムヘキナリ其他一般ノ調書ニ付キ設ケタル
所ノ調書ヲ讀聞カシ若クハ親閲セシメ及ヒ本
人ニテ承諾シタルノ附記書記ノ立會及ヒ署名
捺印ニ関スル規定ハ此証人調書ニモ亦適用ス

六九

ルモノトス
証人ノ尋問法定ノ順序ニ違ハス若クハ完全セ
ズ人ノ其供述明確ヲ欠キ若クハ疑義ヲ存シ又
ハ証人其供述ヲ追補シ若クハ正誤スルカタメ
ニ自ラ其申立ヲナシタル場合ニハ再々ヒ之ヲ
尋問スルヲ得
我訴訟法第三百四十條ノ第一第三及ヒ第四ニ
掲クル場合ニハ証人証據ノ採收ヲ受訴裁判所
ノ判事若クハ治安裁判所ニ任スルヲ得ルモ
トス而シテ其証人若シ其受命判事若クハ受
託判事ノ前ニ出頭スルヲ能ハサル中ハ其居所
ニ就キ其尋問ヲ行フナリ
証人出廷セズ又ハ証言若クハ宣誓ヲ拒絕シタ

ル片其証人ニ對シテ受訴裁判所ニ與ハタル權
利ハ受命判事若クハ受託判事ニ於テモ亦之ヲ
有スルナリ然レモ証人若シ右等判事ノ前ニ於
テ証言ヲナストシテ一般ニ拒絕シ又ハ宣誓ヲナ
スト若クハ判事ノ職權ヲ以テナリ當事者ノ申
立ニ依リテ抑シタル問ニ答フルトテ拒絕シタ
ル中ハ其拒絕ノ正否ハ受訴裁判所ノ裁判スル
キ所トス又右等ノ判事ニシテ當事者ノナサシ
ト欲スル問ヲナストシテ差許ササル場合ニハ當
事者カ受訴裁判所ノ裁判ヲ請求スルニ任カス
ナリ又前掲ノ場合ニ於ケル証人ノ再尋問ハ右
判事ニ獨立シテ之ヲ命ズルヲ得
証人ヲ申出ラタル當事者ハ其尋問ヲ始ムル迄

ノ間ハ此証據方法ヲ放棄スルノ權アリトス其
後ノ放棄ハ對平人ノ承諾ヲ要スルカ
証人ハ日當及ヒ裁判所ニ出頭スルカ
ヲナスヲ要スル中ハ又旅費ヲ請求スル
有スルナリ而シテ其尋問ヲ受ケタル
リタルハ直クニ其受ケタル金額ノ確
求スルハ得其確定ハ裁判所若クハ尋
フタル判事或規ノ比率ニ從ヒ之ヲ
「之ヲ論攻スルヲ得ス又其確定シ
拳証者ノ支拂ヒタル費用豫納額ヲ以
スルヲ得サル中ハ証人ノタメ職權ニ
徴収スニ依リ若クハ職權ヲ以テ其採
心申立ニ依リ若クハ職權ヲ以テ其採

スル鑑定人ノ証據ニ関シテハ別ニ明文ノ存ス
ル外ハ証人ノ証據ニ関スル規定ヲ以テ
適用スルハキ「我法ニ於ケルカ如シト
其別段ノ規定ハ左ノ數点ヲ除ク外我
第三百六十八條乃至第三百七十九條
相符合セリ其數点トハ即テ左ノ如ク
之ヲ忌避スルヲ得ス九ノ裁判所若クハ
面前ニ於テ鑑定ヲナスヘシト陳述シ
証言ヲ拒ムノ權ヲ有スルト同一理由
鑑定ヲ拒ムノ權アリト雖モ又其義務
キ鑑定人ノ不参シト雖モ又其義務ヲ
キ料スルハキ料「証人ト同一ナリ
鑑定人ノ宣

誓ハ鑑定人タルノ義務ヲ公平正実ニ盡クムハ
シト云ハ在リ一般ニ宣誓セシムルハ之
ヲサレナリ鑑定人ハ唯日當旅費ノ請求及ヒ立
替辦償ノ請求ヲ有スルニ止コリ其受クヘキ金
高ヲ確定スルトニ關シテハ亦証人ニ關スル其
規定ヲ適用スト
証書證據ニ於テハ先ツ公証書ニ關シテハ大
要我訴訟法第三百八十一條第一項第三百八十二
條第三項百八十三條第一項第一項ノ旨意ヲ襲用
シ次テ私証書ニ關シテハ其交付人ノ署名捺印
アル私証書其内ニ記載アル權利行為ニ關スル
述意ニ付キ完全ナル證據ヲ成ス私証書ニ記載
アル述意ニシテ權利行為ヲ包有セサルモノ

其交付人、交付人ノ相續人若クハ其他ノ權利承
繼人及ヒ第三百者ニ對シテ證據カヲ有スルヤ否
ヤ及ヒ何如程之ヲ有スルヤハ裁判所事状ニ從
ヒ之ヲ定ムヘシト規定セリ
次テ各種ノ証書ニ關シテ我訴訟法第三百八十
四條ヲ襲用シ又其証書本人若クハ對手人ノ許
ニ在ル場合ニハ其證據ノ提擧大要我法ニ定ム
ル所ノ如シトス但シ對手人ヲシテ証書不具
ノ宣誓ヲナシシムルトモ之ニ代フル
事者ヲ証人ニシテ尋問スルトニ關スル普通ノ
規定ニ依リテ其對手人ヲ証人トシテ宣誓ノ上
之ヲ尋問スルトテ以テモ其對手人官廳ナル
中ハ其長官ヲシテ其証書官廳ニ保藏ナリ其所

右一亦分明ナラストノ証明書ヲ出タサシムル
ナリ
舉証者其舉証ノタメニ要用ナル証書第三者ノ
所持ニ在ルヲ主張シ第三者ヲシテ其證書ヲ
提出セシメンヲ申立テ、其主張ヲ疏明シテ
之場合ニハ證據採收ノ決定ヲ以テ第三者カ其
証書ヲ提出スルヲ命スヘク且之ヲ提出セシ
ムルカタメ若クハ其所在ヲ証言セシムルカタ
メ第三者ヲ期日ニ呼出スヘキナリ其以降ノキ
續ハ即チ証人證據ニ関スル規定ニ因ルモノト
ス但シ第三者官廳若クハ官吏ナル片ハ裁判所
ハ證據採收ノ決定ニ基キテ之ニ其証書若クハ
証書ノ謄本若クハ抄本ヲ回付セラレシムルヲ囑

託スヘキナリ
其次ニハ又我訴訟法第三百九十九條乃至第四
百三條第四百五條第四百六條第一項第四百七
條第四百八條ノ規定ヲ襲用シ唯之ニ輕少ノ附
益若クハ變更ヲ加ヘシ
尚終末ニ規定シテ云ハク何人モ其筆跡若クハ
署名捺印ノ真否ヲ弁スルヲ能ハサル古書類ハ
裁判所其自由ノ信託ニ隨ヒ尚之ヲ真正ト看做
スヲ得惡意若クハ重過失ニ因リテ公証書若
クハ私証書ヲ偽造變造ナリト主張スルモノハ
五十四以下ノ科料ニ處スト又云ハク此証書ニ
関スル規定ハ事ノ本性ノ許ス限リハ事跡ノ記
念若クハ權利ノ表章ノタメ作りタリ標本割符

如キ徴憑ニモ亦之ヲ相應ニ適用スト
「ホ」檢証之據ニ関シテハ、我法ノ所定ノ如ク規定
シタル外尚規定シテ云ハリ、舉証者カ檢証目的
物ノ準備ヲナスヘキ義務及ヒ其目的物ヲ所持
セリト舉証者ヨリ主張セラル、對手人若クハ
第三者カ其目的物ヲ提出スヘキノ義務ニ関シ
テハ、証書ノ提出ニ関スル規定ヲ適用スヘシト
「ハ」當事者ノ自証ハ以テ我法ノ當事者宣誓ニ代
フルモノナレトモ損害ノ有無若クハ其金額又ハ
賠償スヘキ利益ノ多寡ヲ確カメシムルカタメ
主張ノ真實ナルヲ疎明セシムルカタメ及ヒ
証書ノ所持ヲ確カメシムルカタメ稍ヤ自由ニ
之ヲ差許ス前掲ノ場合ノ外ハ當事者カ提出シ

タル他ノ証據ノ以テ裁判所ヲシテ充分其証明
スヘキ事實ノ真否ヲ信認セシムルニ足ラサル
片ニ限り或ハ申立ニ依リ或ハ職權ヲ以テ之ヲ
許スノニ左シハ通例ハ唯我法ノ心須宣誓ノ用
ヲナスノニニシテ單ニ當事者間ニ於テノニ之
アリシ所ノ証記ナキ事實ハ全ク証據ヲ挙クル
ヲ得ス、危懼ナキヲ得サルナリ
當事者ノ自証ニハ第三者ノ証人証據ニ関スル
規定ヲ相應ニ適用スヘク其異ナル所ハ左ノ數
點ニ在テ存スルナリ即チ當事者ヲ証人トシテ
尋問スルノ決定ヲ宣告スルニ當リ其當事者在
廷スル場合ニハ直チニ其尋問ヲ行フヲ例トス
然ラサル場合ニハ証據採收ノ決定ノ意旨ニ依

リ尋問ヲナスヘキ事實ヲ告知シテ之ヲ新期日
ニ呼出スヘシ証言拒絶ノ權ニ関スル規定ハ官
吏ノ其權ニ関スルモノヲ除ク外ハ之ヲ適用
セス争テル事實ニ付キ舉証ノ義務アル當事者
ハ先ツ之ヲ証人トシテ尋問スルヲ例トス但シ
西造一致ノ申立アリ若ハ事實ヲ明ニスルカ
タメ有盗ト思惟スル片ハ先ツ其對手人ヲ尋問
スルヲ得各當事者ハ其對手人ヲ尋問シタル
上ハ自己モ亦証人トシテ尋問セラレシヲ求
ムルヲ得一當事者ヲ尋問シタル上其尋問ノ以
テ其証明アルヘキ事實ヲ充分明カニスルニ足
ラスト思惟スル片ハ又職權ヲ以テシテモ其對
手人ノ尋問ヲナスヲ得舉証ノ義務アル當事

者其証言ヲ拒絶シ其拒絶正當ナル片ハ裁判所
ハ當事者ヲ証人トシテ尋問スルヲ全ク差止
ムヘキヤ將々對手人ノシテ尋問スヘキヤ事
ノ状況ニ從ヒ定ムヘシ舉証ノ義務アル當事者
其争テル事實ヲ知ルヲ能ハスト裁判所ニテ思
惟スル片モ亦右ニ同シ當事者ヲ証人トシテ尋
問スルノ前ニハ先ツ之ヲ宣誓セシムテ尋問ヲ
但シ裁判所ハ一當事者ヲ宣誓セシムテ尋問ヲ
ナシタル上尚其對手人ヲモ証人トシテ尋問ス
ル片ハ其尋問ノ終結ニ至ル迄其宣誓ヲ延列シ
其供述全ク信ス可ラサル片ハ亦其宣誓ヲナサ
シメサルヲ得當事者ヲ証人トシテ裁判所
ニ出頭セシムルカタメ若クハ証言ヲナサシム

ルカタメハ之ヲ料料ニ處シ若クハ引致スル
ヲ得ス當事者充分ノ理由ナクシテ其証言ヲ拒
絶シ若クハ之ヲ証人トシテ尋問スルカタメニ
定メタル期日ニ不参スル片ハ裁判所ハ之ヲレ
テ其尋問ニ由リテ眞實ナラストノ證據ヲ奉ケ
シメントセシ對手人ノ主張ヲ眞實ナリト認ム
ル一ヲ得訴訟無能力者ノ法律上代人訴訟ヲナ
ス場合ニハ其代人ヲ証人トシテ尋問スヘキヤ
其無能力者ヲ証人トシテ尋問スヘキヤ將タ西
人共ニ之ヲ尋問スヘキヤ是レ裁判所ノ思量ニ
一任ス但シ此場合ニハ其無能力者ハ満十六歳
以上ナルヲ要スルナリ國家府縣郡區町村若ク
ハ社寺又ハ人團ノ當事者タル場合ニ至テハ當

事者ヲ証人トシテ尋問スル一ニ関スル右等ノ
規定ハ之ヲ適用スル一ナク其法律上代人ノ十
ス奉証ハ証人證據ニ関スル規定ニ依ル是其相
異ナル數點ナリ
一 證據保全ノ一ニ関シテハ亦我訴訟法ノ規定
ヲ襲用セリ其異ナル所ハ唯自明若クハ輕易ノ
變更ノニ自明ノ變更トハ例ニハ區裁判所ト云
フヲ治安裁判所トナシタルカ如シ
四〇 判決ニ関スル一節ニハ初メニ先ツ我訴訟
法第二百七十二條乃至第二百七十四條第二百
七十六條ノ規定ヲ掲ケタリ但シ我第二百七十
二條ノ第一項ハ之ヲ改メテ訴訟ノ本業又ハ豫
メ完結スヘキ争點裁判ヲナスニ熟スル片ハ裁

判所ハ判決ヲ以テ其裁判ヲ發スヘシトナシ又
我第二百七十六條ニ加フルニ請求ノ原因ニ付
キ發シタル判決ノ確定前ニ於テ其額ニ付キ審
問ヲナシタリ其額ニ関スル判決ハ妨訴抗弁
ノ際ニ於テル手續ト同ク古判決確定ノ後始メ
テ之ヲ發スヘシ先キニ既ニ其額ニ付キ準備書
面ノ交換ヲ行ナヒタル片ハ又之ヲ命スルヲ十
シトノ程限ヲ以テセリ
次テ規定シテ云ハク判決ハ審問アリタル總テ
ノ攻撃若クハ並護ノ方法ニ涉ルヲ要ス但ニ數
個ノ獨立ナル攻撃若クハ並護ノ方法ノ主張アリ
リテ其中ノ一ヲ適切ナリト思惟スル片ハ裁判
所ハ其判決ヲ以下ノ方法ニ及ホスノ義務ヲ有

セス原告ノ請求ヲ不當トスル場合ニハ其不當
トスル請求ヲ被告ヲ敗訴トスル場合ニハ被告
カ其責ヲ盡スヘキ給付所爲忍容若クハ不所爲
ヲ判決ノ本文ニ明掲スヘシ請求ヲ起スヘシ唯早
キニ過キタルノ故ノミヲ以テ之ヲ不當トスル
ノ場合ニハ判決ノ本文ニ唯其現時之ヲ不當ト
スルヲ示スヘシト然ル上又我訴訟法第二百
七十九條乃至第二百八十一條第二百八十二條
及ヒ三條ノ各第一句第二句第二百八十四條第
二百八十六條ノ諸規定ヲ取用セリ其内唯事實ヲ掲ク
ルニ當リテ之ヲ引称ニ止ムルヲ得ルヲニ関ス
ルノ規定ヲ欠リアルノミ其全ハ提要ノ變更ヲ
加ヘタルヲ見ス

判決ハ當事者孰シモ皆其送達アラシク申立
 ツル權アルナリ而シテ其申立アリタル中ハ
 申立人ニシテ又其對手人ニシテ其正本
 送達スルモト又判決ニシテ未タ言渡
 ク其署名捺印アラズニハ其正本抄本若クハ
 本ヲ交付スルヲ得ス其正本抄本若クハ
 書記之ニ署名捺印シ且裁判所ノ印ヲ押捺ス
 キナリ
 次ニ又掲記シテ云ハク裁判所ハ其言渡シタル
 訴訟ノ全部若クハ一部ノ判決ニ拘束セラル
 モノニシテ之ヲ更正シ補完スルノ外ハ之ヲ廢
 罷シ若クハ増減變更スルヲ得スト而シテ其更
 正ニ関スルノ規定トシテ唯我訴訟法第百九

十條ノ第一項其補完ニ関スルノ規定トシテ全
 第百九十二條ヲ採用セリ但シ此第百九十
 二條ノ内ニ於テモ其書面ノ送達及ヒ其記載事
 項ニ関スルノ規定ハ之ヲ除省シテ別ニ左ノ數
 規定ヲ加ヘタリ云ハク其補完ノ申立ニ関シテ
 ハ或ハ即時ニ或ハ更ニ期日ヲ定メテ口頭審問
 ナシ且其期日ニ雙方ノ當事者出頭セズ比亦
 裁判ヲナス出頭セザリシ當事者ハ故障ヲ起ス
 ヲ得スト尚右更正補完ノ兩者ニ通シ規定シテ
 云ハク其更正若クハ補完ノ判決ハ之ヲ判決ノ
 一部トシ其原本及ヒ正本ニ加フヘシト
 次テ判決確定ノ効力ハ判決ノ本文ニ止マリテ
 其理由ニ及フノ得ストノ規定アリ又左ノ規定
 ハ七

ハハ
ヲ掲ケ以テ此一節ノ終結トセリ云ハク判決ヲ
発スルニ付キ卷葉スル判事判決言渡ノ時ト効
力及ヒ其正本抄本謄本ノ交付ニ関スル諸規定
ハ口頭審問ニ基キテ發スル決定ニモ其正本抄
本謄本ニ関スル規定及ヒ裁判所カ其判決ニ拘
束セラルルニキノ規定ハ口頭審問ヲナサズテ
答スル裁判ニモ之ヲ相應ニ適用スト
五〇 遯滞判決及ヒ之ニ對スル法助手段タル故
障ニ関スルハ我訴訟法才ニ百九十五條乃至第
三百條乃至三百三條乃至三百三條及ヒ第三百十二
條第一項ノ諸規定ヲ皆採用セリ其異ナル所ハ
唯ニ三ノ變更及ヒ附加ニ止マルノニ今其中ニ
ヲ稍ヤ緊要ノモノヲ掲ケンニ即チ尤ノ如シ

原告ノ不参ハ請求放棄ノ性質ヲ有スルナリ而
シテ未々陳述ヲナリ、ニ先ツテ秩序維持ノ
メテ遯滞ヲ命セラレ若クハ自ラ陳述ヲナス
能ハサルヲ以テ訴訟代人ヲ用フニトノ命令
ヲ受ケテ之ニ從ハサル當事者ハ亦不参ト見做
スナリ我訴訟法第百九十九條ニ宣誓ノ推付
トナリ之ヲ提出シタル問ト改メタリ左第
百條第一ノ場合ハ之ヲ除去シテ代フルニ不参
シタル當事者ノ其不参ハ天災其他ノ事變ニ因
ルナリ判然タルノ場合ト云フヲ以テ又新々
ナル提舉ヲ正時ニ通告セサルノ場合ニ関シテ
ハ尚不参ノ當事者ヲ更ニ定メタル期日ニ呼出
スニハ其新々ナル提舉ヲ記載スル調書若クハ

書面ノ送達ヨリ其期日ニ至ル迄ノ間必要ノ期
間存スルニ付定メ且違滞判決ヲ發スルノ中立
ノ却下ニ對シテハ抗告ヲナストテ禁シタリ
口頭審問ノ期日(此口頭審問ノ期日ト云フハ別
段ナル規定ノ明文アルモ、外ハ都テ口頭審
問ノタメニ定メタル期日ヲ總稱シタルナリ)
當事者双方共ニ不参シタル場合ニハ一方ノ當事
者ヨリ更ニ口頭審問ノ期日ヲ定メンテテ申立
ツル迄ハ其手續休止スルモトス而シテ若シ
一ケ年内ニ其申立ラザル片ハ其訴及ヒ或ハ
被告ヨリ起シタル反訴モ亦取下ケタルモト
見做スナリ
故障期間ハ之ヲ緊急期間トリト定示スルヲ見

ス、故障ハ書面ヲ提出シテ以テ之ヲ起スナリ其
書面ノ記載事項ハ我訴訟法第百五條ニ掲
ルモノ、如シ唯對手人呼出ノ一事項ヲ省キシ
ノ三、受理ス可ラザルノ素ヨリ明白ナル若ク
ハ定規ノ方式ニ依リテ定規ノ期間内ニ提起
キ故障ハ訴訟ヲ指揮スル命令ヲ以テ之ヲ却下
スヘキナリ其却下ノ命令ニ對シテハ七日以
内ニ抗告ヲナストテ得此場合ヲ除キテハ凡ソ故
障アルヤ口頭審問ノ期日ヲ定メテ當事者双方
ニ呼出ヲナスモトス我訴訟法第百六條ニ
命定シタル故障ノ査閲ハ訴訟ヲ指揮スル際
既ニ査閲ヲナスヲ以テ之ヲ追ヒ査閲ナリトセ
リ又我訴訟法第百九條ニ規定規ノ方法ヲ以

一 遲滞判決ヲ發シタル中トシテ此要件
ハ之ヲ除却セリ
故障ノ外尚非常故障ト云ヘル法即手段ヲ許シ
タルハ特異ナリ即チ非常故障ハ天災其他ノ事
變ニ因リ若クハ其過失ニ非スシテ遲滞判決ノ
送達ヲ知ラス以テ定規ノ期間内ニ故障ヲ起ス
一ヲ得サリシ當事者之ヲ起スノ權アルモ
シテ其期間ハ七日トス其七日ノ期間ヲ起算ス
ルニハ其妨害ノ消止シタルノ日若クハ遲滞判
決ノ送達アリシ日ヲ知リタルノ日ヨリスヘキ
ナリ然レモ徒過シタル故障期間ノ終結ヨリ起
算シテ若シ一ケ年ヲ經過シタルハ復タ非常
故障ヲナスヲ得ス非常故障ヲ提起スルノ書面

ハ故障ヲ提起スルノ書面ニ付テ定メタル要件
ニ適應シ且非常故障ノ理由トスル事實ヲ掲
ルヲ要スルナリ其以下ノ手續ニハ故障ニ關ス
ル規定ヲ相應ニ適用ス但シ其申立人ハ對手人
ノ陳述ノ有無ニ拘ラヌ非常故障ノ理由トス
ル事實ヲ説明ス一ニ非常故障ノ許否ニ關スル
手續ハ之ヲ本案ノ手續ト統合スルヲ得
乙〇治安裁判決ニ於ケル手續ハ之ヲ右ツテ通
常手續督促手續及ヒ勸解手續トス
一〇其通常手續ニ關シテハ既ニ述ヘタル如
ク地方裁判所ノ手續ニ關スル規定ヲ適用スル
ヲ原則トシ其相違ノ點ハ一般ニ治安裁判所
ニ單獨判事ヲ置クヨリシテ自ラ然ルモト尚

特ニハ唯左ニ掲クルモノニ止マレナリ
凡ソ訴其他申請通知陳述具告ハ書面ニテモ口
頭ニテモ之ヲナス一ヲ得
其訴アリタルハ別ニ訴訟ヲ開始スルニ障害
アラヌニ直々ニ口頭答弁及ヒ其以下ノ口頭
審問ヲナスルカメ期日ヲ定ムルナリ書記ハ其
訴状若クハ調書ノ謄本ヲ被告ニ送達セシムル
ニ準備書面ノ交換ハ之ヲ行ハス然レモ一方ノ
當事者ノ申立若クハ事實ノ主張ニシテ豫メ之
ヲ對手人ニ告知スルニ非スニハ對手人ニ對
シテ陳述ヲナス一能ハサルニト思惟スルモ
ノハ其口頭審問ノ前ニ其當事者之ヲ一定ノ方
式ニ依ラヌレテ直々ニ對手人ニ告知シ若クハ

對手人ニ送達セシムルカメ書面ナリ口頭ナリ
ニテ之ヲ裁判所ニ申出ツルヲ得呼出期間ハ
少クモ三日ナリトス但シ事切迫ナル場合ニ於
テハ之ヲ二十四時間迄ニ短縮スル一ヲ得一ク
外回ニ送達ヲナス場合ニハ事状ニ應シテ其期
間ヲ定ムハナリ
次ニ我訴訟法第四百六十一條第四百六十五條
第一項第三項第四百六十七條第一項ノ規定
ヲ但シ權利關係ノ確定ヲ申立ソルノ場合ハ之
ヲ除キタリ又左第四百七十一條第一項ノ規定
リ以規定ニハ尚附規レテ云ハク自由承認放棄
及ヒ和解ハ調書ヲ以テ之ヲ確カスルヲ要ス人治
安判事及ヒ書記ハ調書ニ署名捺印ス一ニ若シ

治安判事之カ支障ノルハ書記ノ署名捺印ノ

ニテ以テ足レリトスト

二〇督促手續ニ関シテハ我訴訟法第六百二十

八條乃至第六百三十三條第六百三十八條第一

項第六百四十二條第六百四十三條ノ規定ヲ取

用セリ唯其緊要ノ一處更トモ稱ス一テハ辨償

命令ヲ發スルノ權アル裁判所ハ必ス其地ヲ管

轄スル治安裁判所タルニシトシタルノ一點ト

ス

之ニ反シテ其異議ニ関スルノ規定ニ至テハ相

異ナル所少クシトセズ即チ其規定ニ依ルニ債

務者其請求若クハ請求ノ一部ニ對シテ正時ニ

異議ヲナスハ其異議ヲナスニ債務者其理

由ヲ示シテ唯書面ナリ口頭ナリニテ辨償

命令ニ對シ異議スル旨ヲ陳述スレハ以テ足レ

リトス其事件ハ尚拘束スルニ辨償命令其効力

ヲ失ヒ又數請求ノ中ノ一二ノニ對シテ異議

スルハ他ノ請求及ヒ他ノ請求ニ関スル費用

ノ部分ニ付テハ辨償命令其効力ヲ保ツト同シ

ク皆然ル所ナレバ其事件若シ治安裁判所ノ權

限内ニ屬スルモナレバ職權ヲ以テ其通常

手續ニ関スル規定ニ依リ口頭審問ノ期日ヲ定

ムルナリ又其事件治安裁判所ノ權限内ニ屬セ

ルハ正時ニ異議アリタルヲ債權者ニ通

知スルハ債權者ハ此通知ノ送達ヲ受ケタルヨ

リ起算シテ一月内ニ其權限ヲ有スル裁判所

ニ

テ

テ

テ

テ

テ

テ

テ

テ

テ

＝訴ヲ起スヘシ然ラハシハ事件拘束ノ効果消
滅スルモトス
執行命令ナルモハ之アルニ非ス則ケ債務者
若シ定規ノ期間内ニ異議ヲ起サ、ル片ハ辨償
命令ニ確定シタル遲滞判決ノ効力ヲ生スルナ
リ然レモ其異議ヲラサリシヲ債權者ニ通知
シタルモ債權者其通知ノ送達ヲ受ケタルヨリ
三ケ月以内ニ其辨償命令ノ執行シ得ヘキ正本
ヲ求ルルナリナリハ辨償命令ハ其効力ヲ失シ
テ事件拘束ノ効果モ亦消滅スルニ至ルナリ其
時ヲ失シテ起シタル異議ハ命令ヲ以テ之ヲ却
下スヘシ其却下ノ命令ニ對シテハ七日以内ニ
抗告ヲナスナリ得

異議ノ期間ヲ空過シタル債務者ハ七日以内ニ
非常異議ヲ起スナリ得ルモトス非常異議ニ
関シテハ非常故障ト同一ノ要件存スヘキ其他
非常故障ニ付キ定メタル他ノ規定モ亦之ニ相
應ニ適用スヘキナリ
三〇勸解手續ハ其規定隨分綿密ニシテ中ニ
又特異ノモノアリトス其手續ニ於テ証拠採收
ヲナスノ規定即ケ是ナリ御解手續ノ規定即ケ
左ノ如シ凡ソ當事者ハ治安裁判所若クハ始審
裁判所ニ訴ヲ起サ、ルノ前又ハ督促手續ニ依
リテ辨償命令ヲ發スルノ前申立テサレバ前ニ
ハ其地管轄ノ治安裁判所ニ勸解ヲ申立ツルノ
権アリトス其申請ハ書面若クハ口頭ヲ以テス

ルヲ得但シ之ヲ對手人ニ送達スルヲ要セス又
其申請ニハ當事者雙方ノ氏名身分職業住所及
シ争論ノ目的物ヲ掲クハシ勸解ノ為メ當事者
ヲ呼出スニハ其呼出ニ前記ノ諸事項先ニ自身
ニテ期日ニ出頭スハキノ催告ヲ掲クハク自身
ニ出頭シテ勸解ヲ申請シタル當事者ニハ口頭
ヲ以テ呼出ヲナシ且其對手人ニ宛テタル呼出
ヲ交付シテ之ニ其呼出ヲ送付セシムルヲ得
裁判所ノ開廳中ハ豫メ期日ノ定メナク當事者
雙方出頭シテ勸解ヲ受クルヲ得勸解ノ審問
ニハ充分ノ事故アル外ハ代人ヲ差許サス又當
事者雙方ノ申立アルハ裁判所ハ證人鑑定人
ヲ尋問シ若クハ檢證ヲナスヲ得勸解調和シ

タル中ハ之ヲ調書ニ確カムヘク一方ノ當事者
不參シ若クハ勸解不調トナリタル場合ニハ唯
其旨ヲノシ調書ニ記載スヘキナリ而シテ此場
合ニ於テハ勸解ノ費用ヲ將ニ起ル争訟ノ費用
ノ一部ト見做スヘシ

第五

上訴ハ我法ト同ク控訴上告及ヒ抗告ノ三十ナリ
トス

一〇控訴ニ関シテハ先ツ我訴訟法第四百七十二
條第四百七十四條第四百七十六條第一項第四
百七十七條乃至第四百八十條ノ規定ヲ襲用セ
リ其内唯控訴狀ヲ送達スヘシト云フヲ改メテ
控訴狀ヲ管轄ノ控訴裁判所ニ差出スヘシトナ

及之第四百七十九條ノ第ニテ省キシノ然
ル上尚規定シテ云ハク扣訴ノ提起ハ當事者之
第一審ノ裁判所ニ届出ツヘシ其届出アリタル
★ハ書記扣訴人ノ費用ヲ以テ其訴訟記録ヲ扣
訴裁判所ニ送付ス素ヨリ受理ス可ラサルノ
分明ナル若クハ定規ノ方式ニ依リ定規ノ期間
内ニ提起スラサル扣訴ハ訴訟ヲ指揮スル命令
ヲ以テ之ヲ却下スヘシ其却下ノ命令ニ對シテ
ハ七日以内ニ抗告ヲナストテ得ヘシト
扣訴ノ提起アリテ其扣訴素ヨリ受理スヘリ若
クハ定規ノ方式ニ依リ定規ノ期間内ニ提起ス
リタルモノナルキハ其扣訴狀ノ副本ニ十四日
以内ニ答辯書ヲ差出スヘシトノ催告ヲ附シテ

之ヲ被控訴人ニ送達スルモトス其關係スル
所ノ大ナル若クハ錯雜ナル事件ニ在テハ適宜
其期間ヲ延長スルヲ得ヘキナリ其答辯書ハ準
備書面ニ関スル普通ノ規定ニ依リテ之ヲ作り
且被控訴人ノ一定ノ申立及ヒ其主張スル新事
實新證據ヲ掲グルルヲ必要トス又被控訴人ハ其
答辯書ヲ以テ扣訴人ノ扣訴ニ附帶シテ扣訴ヲ
ナストテ得ヘリ而シテ此附帶扣訴ニ関シテハ
我訴訟法第四百八十二條第ニ項及ヒ第四百八
十三條ノ規定ヲ能用セリ答辯書ニ新事實新證
據若クハ附帶扣訴ノ陳述ヲ載スルハ其副本
ヲ扣訴人ニ送達ス扣訴人ハ又七日以内ニ
對スル辯駁書ヲ提出スルヲ得ス

、交換終、リタル片ハ口頭審問ノ期日ヲ定ム
ルナリ
其以下ノ手續ニ至テハ特別規定ノ明文アル外
ハ始審裁判所ニ於ケル第一審手續ニ関スル規
定ヲ相應ニ適用スルハキナリ而シテ其特別規定
トハ我訴訟法ノ左ノ條々ト人、第四百八十七條
乃至第四百九十一條、但シ第四百九十一條ニハ
尚附加シテ云ハク相牽連セサル新タル反對
債權推ハ以テ相殺ノタメニ過キス凡亦唯
控訴狀若クハ答辯書ニ於テノ之ヲ主張スル
ヲ得ハシ反訴ハ之ヲ提起スルヲ得スト、第四百
九十三條、第四百九十四條、第四百九十七條、但シ
査閱ハ訴訟指揮ノ際既ニ之ヲ見ルヲ以テ茲ニハ

之ヲ追テ査閱ナリトセリ、第四百九十八條、第
百九十九條、第一百條、但シ、第五百條ノ第
一ニハ故障ノ外尚非常故障ト云フヲ加ヘ其第
四ハ之ヲ改メテ其論攻ヲ受ケタル為替訴訟ノ
判決ニ於テ其敗訴シタル被告ノタメニ、別段ノ
訴訟ヲ以テ推理ヲ伸張スルヲ、留保シタル片
トセリ、第五百一條、第五百四條、但シ、第五百
ノ内ニハ左ノ意更テリ云ハク、口頭ノ事
實上ノ提舉ハ被訴人ニ送達シタル書面ノ旨
趣ト相符合シ且第一審裁判所カ其裁判ノ根拠
トナシテ其訴訟記録ニ判然タル攻撃若クハ辯
護ノ方法及ヒ証拠ノ結果ニ逆ハサル限リハ被
訴人ノ自認シタルモノト見做スハシト、及

第二百五十六條ノ第二項即チ是ナリ
次ニ又規定シテ云ハリ名姓ヲ誤マリ他ノ上訴
トシテ提出シタルモノト雖モ素ト受理スヘキ
扣訴ニシテ其當事者モ亦扣訴ヲナスノ意旨ナ
リト推斷シ得ヘクハ以テ扣訴ヲナシタルモ
ノト見做スヘクト然ル後尚扣訴提起ノ期間ヲ
徒過シタル當事者ノナシ得ヘキ非常扣訴ニ関
スル規定アリ即チ其規定ニ依ルニ非常扣訴ハ
天災其他避ク可ラサル事変ニ因リテ扣訴ノ期
間ヲ守ルコトヲ得サリト當事者之ヲナシ得ヘキ
トシテ其期間ハ十四日之ヲ起算スルニ
ハ其妨碍ノ消去シタル日ヨリスヘキトリ但シ

徒過シタル扣訴期間ノ終結ヨリ起算シテ一年
ノ後ハ復タ之ヲ提起スルヲ得ス非常扣訴ヲ提
起スルノ書面ハ扣訴状ノ要件ニ適ヘル書面ニ
添ヘテ之ヲ差出スヘク且非常扣訴ノ理由トス
ル事實及ヒ非常扣訴ヲ提起ストノ陳述ノ掲
ルヲ要スルナリ其申立人ハ對手人ノ陳述ノ有
無ニ拘ハラズ非常扣訴ノ理由トスル事實ヲ疏
明人ヘシ非常扣訴ノ許否ニ関スル手續ハ其扣
訴ノ手續ト之ノ併合スルノ得其許否ノ裁判
及ヒ其裁判ノ論攻ニ関シテハ扣訴ニ付キ設ケ
タル其規定ノ適用ス但シ非常扣訴ヲナシタル
當事者ハ故障ヲ起スコトヲ得ス又非常扣訴ノ許
否ニ關スル手續ノ費用ハ對手人ノ不當ナル異

識、タメニ生シタルモノ、外ハ非常扣訴ノ申
立人ノ之ヲ擔當人ハシト
一〇上告ニ至テハ扣訴ヨリモ我法ト異ナル所
多シトス即チ上告ハ治安裁判所第二審裁判所
タル始審裁判所及ヒ控訴院ノ發シタル判決ニ
對シテ單訟目的ノ物ノ價格如何ニ拘ハラズ之ヲ起
シ得ヘキモノニシテ其理由トスル所ハ唯法律
ニ背反シタル判決ヲナシ若クハ法律ニ背反シ
ウ、判決ヲナシタリト云フニ在リ得ヘキノ
而シテ法律ニ背反スルトハ法律ニ成テタルト
慣習ナルトヲ問ハル之ノ適用スルキニ適用セ
ス若クハ適用ス可ラサルニ適用シタル場合又
ハ裁判手續ノ緊要ナル規定ニ悞觸レタル場合

ヲ云ヘルナリ判事カ其思量ニ隨ヒ適用スルキ
規定ノ適用ニ付キ若クハ事實ノ判断ニ付キ失
擧アリトスルカ如キハ以テ上告ノ理由トスル
ヲ得ス勿論事實ノ判断ニシテ法律ニ背反スル
モノハ此限ニ在ラサルナリ
上告期間ニ関シテハ我訴訟法第四百九十三條
ニ定ムル所ノ如シトス唯之ヲ緊急期間ナリト
スルトアラサルノ如シトス唯之ヲ緊急期間ナリト
上告人ハ支辨猶豫ノ允許ヲ得タルニ非サル限
リハ上告ヲ提起スルノ前光ツ上告金十圓ヲ書
記ニ添納スヘキナリ此上告金タル原判決ヲ破
毀シタル片ハ之ヲ還付スルモ若シ判決ヲ以テ
上告ヲ受理セスト言渡サシ若クハ受理セラレ

夕ル上告ノ不當ナリトシテ却下サレ若クハ上
告人上告ヲ頭下ヤル場合ニハ之ヲ選付ル
トナシ支辨猶豫ノ允許ヲ得タル當事者ニ至テ
モ亦右等ノ場合ニハ將來之ヲ追納スルノ義務
ヲ更ハルモ之ニシテ其ノ此義務ヲ行フニ付テ
ハ一時支弁ノ猶豫ヲ得タル金額ヲ追納スルノ
義務ニ関スル規定ヲ相應ニ適用スルキナリ
上告ノ提起ハ上告状ヲ大審院ニ差出シテ以テ
之ヲナスモノトス上告状ノ記載事項ニ関シテ
ハ我訴訟法第五百十五條及七百十六條ノ
規定ヲ襲用セリ但之ニ自明ノ変更ヲ加ハ且
第五百十五條ノ第三及之章五百十六條ノ末項
ヲ削リタリ

上告状ニハ上告金ノ受領證書若クハ支辨猶豫
ノ允許状ヲ添附スルキナリ然ルニハ上告ノ
提起アリタルモノトセス
提起ノ提起イタルモノトセス
上告ノ提起イタルモノトセス
出シテ口頭審問ヲ開キ判決ヲ以テ上告ノ許否
ヲ裁判スルモ之トス此前一審問ハ直ニ下
ニ掲ケルカ如キ報告判事ノ任人ニ関スル
規定ヲ相應ニ適用シテ之ヲナスモノニシテ其
報告判事ノ演述ヲ以テ始マルナリ而シテ上告
受理スヘキモノナルキハ之ヲ受理スル旨ヲ言
渡スヘク又素ヨリ受理ス可クサルモノナルカ
若クハ定規ノ方式ニ依リ定規ノ期間内ニ提起
スル若クハ上告ノ理由ニ関スル規定ニ依リ

不當ト人へキ場合ニハ不受理ナリトシテ之ヲ
棄休スヘキナリ上告人若シ其前ハ審問ノ期日
ニ不参スルキハ上告ヲ願下ケタルモノトナス
上告ヲ受理シタル場合ニハ上告状ノ副本ニ十
四日以内ニ答辯書ヲ差出スヘシトノ催告ヲ附
シテ之ヲ被上告人ニ送達スヘキナリ其答辯書
ハ準備書面ニ関スル普通規定ニ依リテ之ヲ作
リ且定マリタル申立ヲ掲リルヲ必要トス又被
上告人ハ附帶ノ上告ヲナスヲ得ヘク然ル片
ハ答辯書ニ其陳述ヲ掲クルヲ要スルナリ且上
告状ニ関スル規定ニ依ル不服ノ点若クハ一定
ノ申立ヲ掲クヘク然ラズハ附帶上告ノ効力
アルヲ得ス其他ハ之ニ附帶扣訴ニ関スル規定

フ相應ニ通用スヘキナリ答辯書ニ附帶上告ノ
記載アル片ハ其副本ヲ上告人ニ送達スヘク上
告人ハ又七日以内ニ之ニ對スル辯駁書ヲ差出
スルヲ得ルモトス斯クテ書面ノ交換終ハリ
タルキハ裁判長ハ報告判事ヲ任シ報告判事ハ
訴訟記録ニ據リテ七日以内ニ上告裁判ノメ
必要ナル事ノ事實及ヒ權利ヲ自己ノ法律上ノ
判断ヲ交シヘスレテ書面ニ作ルハシ然ル上口
頭審問ノ期日ヲ開クナリ
其以下ノ手續ニ至テハ特別規定ノ明文アル外
ハ如審裁判所ニ於ケル第一審手續ニ関スル規
定ヲ適用スヘキナリ然レモ裁判所ハ其事件ノ
如何ナル状況ニ在ルヲ問ハス其調和ヲ試ムル

トヲ得トノ規定ハ之ヲ通用スルヲ得ス又其特
別規定トシテハ我訴訟法第五百二十二條第五
百二十四條第五百二十六條第五百二十七條及
第二百五百二十八條ノ規定ノ内其末項ハ之ヲ刪除シ且
百二十八條ノ規定ノ場合ニ於テモ亦他ノ控訴院ニ其
原判決破毀ノ場合ニ於テモ改メタリ而シテ尚
事件ヲ移付スルヲ許スルニ改メタリ而シテ尚
左ノ特別規定アリ云ハリ口頭審問ハ報告判事
其報告書ニ依リ演述ヲナシテ以テ始マルモ
ナリトス當事者ハ之ヲ補充シ更正スルヲ得
次ニ自己ノ申立ヲ辯明スルカクモ發言スルヲ
得入シ證據採收ノ必要ヲ生スルハ大審院
之ヲ命スル其舉行ハ大審院ノ思量ニ從ヒ大

審院自ラ之ニ任シ或ハ之ヲ他ノ裁判所ニ託ス
ルヲ得控訴ニ付キ設ケタル數規定就中遲滯
判決ノ論攻ニ関スル規定控訴ノ願下ニ関スル
規定扣訴ト故障ノ同時ニ提起アリタルハ於
ケル手續ニ関スル規定控訴人ニ不利ナル判決
ヲ許ササルノ規定遲滯判決ヲ發スルトニ
関スル規定控訴ノ届出ニ関スル規定訴訟記録
ノ送付及ヒ還付ニ関スル規定名稱ヲ誤マリテ
控訴ヲナシタルハ於ケル手續ニ関スル規定
ハ皆之ヲ上告ニモ相應ニ適用ス但シ其事件ヲ
原控訴院ニ再付シ若クハ他ノ控訴院ニ移付シ
タル場合ニハ訴訟記録ヲ直接ニ其控訴院ニ送
付シテ原第一審裁判所ニ其旨ヲ通知スルハ又
大審院若クハ其移付ヲ受ケタル控訴院判決ヲ

ナシタルキハ原控訴院ニ其判決ノ謄本ヲ與フ
ハシト

天災其他避ク可ラサル事変ニ因リテ上告提起
ノ期間ヲ徒過シタル當事者ハ非常上告ヲナス
ノ權アルナリ非常上告ヲナスニ付テハ非常控
訴ニ関スル規定ヲ相應ニ適用ス
三〇上告ト反シテ抗告ハ又殆ト全ク我訴訟法
ト符合セリ即チ我訴訟法第五百三十條乃至第
五百三十九條ノ規定ニ僅少ノ変更ヲ加ヘテ之
ヲ取用シムルモノニシテ其変更ハ自明若クハ
不緊要ノモノヲ除キテ左ニ掲クルカ如シトス
即チ強制執行手續ニ於テ発スル裁判モ尚抗告
ヲ起シ得ヘキ裁判ノ一ナリトス以テ抗告ハ

之ヲ一般ニ許スヲナク唯一ニノ特ニ掲クル場
合ニ於テ之ヲ許スノ其場合ハ強制執行ノ中
ニ存スルナリ(強制執行ノ編ニ至リ之ヲ掲クハ
シ)又特ニ規定シテ云ハク抗告裁判所ノ査閱ス
ル所ハ事職權ヲ以テ顧考スヘキ手續ノ欠缺ニ
関スルニ非サレハ唯其主張アリシ不服ノ点ニ
止ムベシ原裁判所ハ其拘束セル争訟ニ於テ抗
告裁判所ノ裁判ニ従フヘシト其他我訴訟法第
五百三十二條第二項ノ支辨猶豫ノ下ニ関シテ
抗告ヲナスト云フヲ削除シテ證書若クハ檢
證目的物ヲ提出スルノ義務アリトセラレタル
第三者抗告ヲナスト云フヲ加ヘ抗告ヲ停止
ノ効力ヲ有スルハ特ニ其旨ヲ掲クル場合ニ在

リトセリ又云ハリ抗告裁判所ノ裁判ハ原裁判
所之ヲ開示スヘリ但シ抗告裁判所別段ノ定メ
ヲナス片ハ此限ニ非ス名称ヲ誤マリテ抗告ヲ
ナシタルトニ關シテハ控訴ニ付キ設ケタル其
規定ヲ相應ニ適用ス天災其他避ク可ラサル事
變ノタメニ抗告提起ノ期間ヲ徒過シタル當事
者ハ非常抗告ヲナスヲ得非常抗告ヲ提起ス
ルニ付テハ非常控訴ニ關スル規定ヲ相應ニ適
用ス之ヲ提起スルノ期間ハ七日ニシテ其妨碍
ノ消止シタル日ヨリ之ヲ起算スト

シユルツエンス
スタイン氏述

日本ノ民事訴訟法草案

日本ノ民事訴訟法草案 明治十九年 印刷
伯林上等地方裁判所評定官 シェルツェンスタイン述
千八百六十八年日本ニ國法上及ヒ社會上ノ愛
動アルヤ日本ハ茲ニ從來亞細亞ノ氣勢ニ制セ
ラレタル特殊ノ發達ト斷然相絶ツテ國家ト人
民ヲ歐洲ノ文明世界ニ深結セシムルノ世運ヲ
開キタリ是ニ於テカ又其必然ノ勢トシテ一部
分ハ重モニ支那ノ風氣ヲ學ヒテ作りムル成文
律大部分ハ尚古來ノ習慣、但シ首トシテ亦支那
ヨリ移シタル思想ニ基キシ古來ノ習慣、ヨリ成
リ立ツ旧來ノ法律狀態ニ較著ノ改革ヲ加一サ
ルヲ得ス而シテ其改革モ亦歐洲ノ精神ヲ以テ
之ヲ行フノ外アルヲ得サルハ論ヲ待タサルナ

リ既ニシテ其改革ニ著手スルヤ頗フル熱心ヲ以テシタリ又之ニ従事スルニモ其改革ノ決行ハ是ヨリ先キ日本人カ強ヒテ締結セシメラレテ甚ハタ宮東ノ感ヲ有スル所ノ外國人ヲシテ日本裁判權ノ下ニ立タシメスシテ其國領事ノ裁判權ノ下ニ立タシムル國際條約ヲ廢除スルノ前ハ條件ナルカ故愈々益々堅忍ノ志ヲ以テスルヲ見ル

斯クテ今ヨリ數年ノ前既ニ刑法沿革法ヲ制定シ沿革法ノ内当分尚實施ス可カラスト思ハレタル二三ノ規定ヲ除ク外ハ千八百八十一年ヨリ皆之ヲ實施セリ而シテ右ノ刑法ハ現今又改正中ナリトス其他為替余例ノ發布アリ又巨

多ノ法律ヲ以テ或ハ一定ノ別段ノ事項ニ付キ周到ノ規定ヲ設ケ或ハ其事項ニ關スル旧來ノ法規ヲ其大體ニ於テハ存留シテ之ニ變更ヲ加ヘ若クハ之ヲ補完セリ即チ抗法銀行條例取引所條例公証人規則及ヒ株式會社保險會社鐵道會社等ニ關スル各法律ハ右第一種ニ屬スルモノニシテ破産手續及ヒ訴訟手續ニ付テハ第二種ノ如クシ就中訴訟手續ニ關シテハ以テ準備書面ノ交換等ニ關スル規定ヲ新設セリ

此外民法モ亦今方ニ其編纂中ニシテ其大部分ハ既ニ其業ヲ終ハリタリ

又憲法モ同断ニシテ其成ルヤ亦司法ノ上ニ間接ノ効果ヲ及ボスノ規定ヲクンハアル可ラス

其他尚今ヲ距ルテ遠カラサルノ前訴訟法及ヒ
裁判所構成法ヲ制定スルカタメニ各々特別
委員會ヲ設ケタリ其委員ノ一部ハ歐洲殊ニ
漏西ニ講學シテ以テ其豫修ヲナセシモノナリ
トス既ニシテ其訴訟法草案ハ千八百八十六年
ニ成リ千八百八十七年ニハ其善美ノ獨逸
歐洲殊ニ此編ノ稿者ニ田村ニ以テ閱覽ヲ求メ
意見ヲ徴シタリキ裁判所構成法ノ草案モ亦其
完結近キニ在リ
右ノ兩草案タルヤ獨字現今ノ法律狀態ヲ移ス
テ隨分密ナリトス然レバ他ノ諸草案諸法律ニ
至テハ專ハラ獨逸以外ノ法律ニ因ルモノニ
テ其之ニ因ルヤ亦右兩草案カ獨字ノ法律ニ因

ルニ劣ラサルナリ例ハ「鐵道會社ニ關スル法
律」英米ヲ模範トシ公証人規則ハ和蘭及ヒ重
ニ佛蘭西ヲ模範トシ而シテ刑法治罪法花ニ
民法草案ノ如キハ最モ佛蘭西ヲ模範トセリ蓋
シ獨字ト佛國トノ法律上ノ事形ニハ大ニ相違
スル所ニアリテ其大相違ノ一部ハ根本ノ思想
ノ相同シカラサルニモ原由ニ又本實法ト訴訟
手續ノ間ニハ密着離ル可ラサルノ關係アリテ
互ニ其根基ヲ異ニスルテ能ハサルモノナリニ
事ノ情狀右ノ如シトセハ訴訟法及ヒ裁判所構
成法ノ兩草案ト他ノ法律及ヒ草案トノ間ニ根
本上ノ抵觸ナカラシムルハ誠ニ難カルヘシ
日本訴訟法草案ノ首要及ヒ已固ノ大ニ素ヨ

リ以テ深ク注思スルニ足レリトス加フルニ獨
逸ト日本トハ其關係近年甚ハタ活潑トナリ又
愈々活潑ヲ加フルノ勢アリ殊ニ其模範ハ獨逸
ノ訴訟^法學漏西ノ不動産強制執行法ナリトセ
ハ該草案ノ詳細就中該草案カ獨逸ノ右ニ法律
ヲ取テ其規定ヲ右ニ法律カ素ト其適用ヲ期シ
タル關係ト大ニ相異ナルノ關係ニ適用スヘシ
トスルノ点何如及ヒ其ノ右ニ法律ヲ取ラザリ
シノ点之ヲ取ラスシテ自ラ設ケタル規定ノ何
如ニ關スル詳細ヲ知ルハ吾人ノタメ一般ノ利
益ヲクシハアル可ラザルナリ
抑モ該草案ハ条數八百七十四ヶ条ヨリ成ルモ
ノニシテ其ノ涉ル訴訟手續ノ總體ニ及ヒ不

動産強制執行ヲモ單々テ之ヲ規定セリ但タ婚
姻事件ノ手續(日本ハ一夫一婦ノ制ナレト婚
ノ争訟ハ旧慣ニ依リ之ヲ裁判ス)禁治産事件ノ
手續(此手續ハ行政廳ノ權限内ニ屬ス)公示催告
手續及ヒ仲裁ノ判手續ヲ除クノ三又獨リ民事
訴訟手續ニ固有ナルノ三ナラズ凡ソ訴訟手續
ニハ皆之アルヘク則チ民事刑事ノ訴訟ヲ通シ
テ齊シク其定メアルヘキ數事項ヲモ掲ケタリ
審判公行法廷取締裁判所ノ用詔訴訟記録ノ設
定具備即チ是ナリ尚本実法ニ屬スヘキ規定モ
テリ例ハ為替上ノ請求ニ對シテナシ得ヘキ
抗辯ニ關スル規定損害賠償ノ義務ニ關スル規
定ノ如キ即チ是ナリ損害賠償ノ義務ニ關スル

規定トハ例ハ債権者其強制執行ヲ停止スハ
キ義務ヲ生スル事實存スルヲ知ルモ正時ニ
必要ノ取計ヒヲナスルヲセヌルニ損害ヲ生
セシメタル場合ニ放テ之ヲ賠償スルノ義務又
ハ債務者物若クハ債権ノ差押ヲ蒙ルリタルモ
其物若クハ債権ニ付テハ差押ノ際不在ナリシ
第三者所有權若クハ質權ヲ有スルニ直チニ之
カ通知ヲナスルヲセヌルニ損害ヲ生セシメ
タル場合ニ放テ之ヲ賠償スルノ義務ニ関スル
規定ヲ云フ

右八百七十四ノ条ハ又之ヲ分ケテ八篇トナス
第一裁判所第二當事者第三審判通則第四第一
審手續第五上訴第六再審手續第七特別訴訟手

続第八強制執行即チ是レナリ

第一

其裁判所ヲ治安裁判所始審裁判所知訴院及ヒ
大審院トス此等ノ裁判所ハ治安裁判所ニ單獨
判事ヲ置クノ外皆合議裁判所ナリ

治安裁判所ハ唯第一審ノ裁判所ニシテ其權限
ハ目的物ノ價格百圓ノ上ニ出テカル財產法上
ノ請求ニ関スル諸般ノ争訟ヲ裁判ニ及ヒ尚目
的物ノ價格ニ拘ハラズ幾種ノ争訟ヲ裁判スル
ニ在リ其争訟ハ即チ我裁判所攝成法第二十三
条第二ノ初メ三項ニ掲ケルモノト大要相同シ
トス官吏カ其職務上ノ關係ニ付キ國家ニ對シ
テ起ス請求行政官廳ノ處分及ヒ官吏ノ職務上

ノ過失若クハ誤謬ニ付キ國家ニ對シテ起ス請
求官吏ノ職務上ノ過失若クハ誤謬ニ付キ官吏
ニ對シテ起ス請求及ヒ租税ニ關スル請求ニ至
ラハ何如ナル場合ト雖モ治安裁判所ノ權限ニ
屬セザルナリ
其目的物ノ價格十圓ノ上ニ出テガハ財產法上
ノ爭訟ニ至ラハ治安裁判所ハ又同時ニ第二審
ノ裁判ヲモテスモトス是レ治安裁判所ハ第一
一審ニシテ又第二審ノ裁判所ナリトノ謂ニ非
ス唯右ノ如キ爭訟ニハ扣訴ヲ許サストノ謂ナ
ルノ三
始審裁判所ハ第一審及ヒ第二審ノ裁判所トス
而シテ第一審ノ裁判所トシテハ治安裁判所ノ

權限ニ歸セザル諸般ノ民事爭訟ヲ裁判ニ及ヒ
特ニ治安裁判所ノ權限ヨリ取離ナシタル前掲
ノ爭訟ヲ其目的物ノ價格ニ拘ハラス裁判ス但
ニ此爭訟ニシテ行政裁判所ノ權限ニ屬スルモ
ノ別段ナリ又第二審ノ裁判所トシテハ治安
裁判所ノ判決及ヒ其他ノ裁判ニ對スル扣訴抗
告ノ裁判ス
扣訴院ハ唯第二審ノ裁判所ニシテ則チ始審裁
判所ノ第一審判決ニ對スル扣訴及ヒ左裁判所
ノ裁判ニ對スル抗告ヲ裁判スルノ權限ヲ有ス
ルナリ
大審院ハ最高級ノ裁判所ニシテ扣訴院ノ判決
及ヒ其他ノ裁判ニ對スル上告抗告ヲ裁判ス又

價格十円以内ノ財産法上ノ争訟ニ於ケル沿革
裁判所ノ判決ニ對スル上告及ヒ始審裁判所ノ
第二審判決ニ對スル上告ヲモ裁判スル一段ハ
是レ特異ノ規定ナリ
裁判所ノ権限ヲ定ムルノ標準タル争訟目的物
ノ價格ヲ計算シ確定スルニ關シテハ我訴訟
法第三條乃至第十一條ニ於ケルト同一ノ規定
ヲ設ケタリ其相異ノ点ハ唯一二ニ止マレ
裁判所ノ管轄ニ關スル規定ニ至ラモ亦殆ト全
ク我法ト符合セリ其相違ノ点トシテ茲ニ舉ク
ハキモノハ唯左ノ一点ノ三即チ共同訴訟人ト
シテ相借ニ訴ヘラルハ二名以上ノ人各々其
ノ住居スル裁判管轄區ヲ異ニスルハ其共同

訴訟ハ必然ノモノタルニ非サル場合トモ比以
テ差違ヒテク其ノ孰レカ一ノ裁判所ニ其諸人
ニ對スル訴訟ヲ起スヲ得ハク上級ノ裁判所ニ於
テ其管轄裁判所ヲ定ムルカ如キトハアラサル
ナリ
其他又裁判所ノ権限及ヒ管轄ノ約定先ニ裁判
所員ノ除任及ヒ忌避回避ノ一モ其大要ハ全ク
我法ノ如シトス其ノ殊ニ異ナル所ハ左ノ數点
ノ三當事者互相ノ約定ヲ以テ沿革裁判所ニ屬
スル事件ヲ始審裁判所ニ提出スルハ始審裁
判所ハ同時ニ第一審及ヒ第二審ノ裁判ヲナス
其約定ハ裁判所ノ権限違ヒ若クハ管轄違ヒナ
ルトテ主張ヒスレテ本案ノ口頭審問ヲ受ケ以

テ黙示シテ之ヲ取結フヲ得ヘシト虽凡明示
テ其約定ヲナスノ場合ニハ書面ニテ之ヲ取結
ト本訴若クハ反訴ト共ニ之ヲ提出スルヲ要ス
忌避ノ申請大審院ノ判事ニ関スル中ハ大審院
ハ毎ニ自ラ之カ裁判ヲナシ必要ノ場合ニ於テ
司法大臣ハ本案ノ裁判ニ関係ナキ扣訴院ノ
判事ヲ命ジテ右ノ裁判ヲナスニ要用ナル員數
ヲ充タシテ故意若クハ重過失ニ因リ忌避ノ申
請ヲナス者ハ五十四以下ノ科料ニ處スト云フ
一即チ是ナリ
之ニ反シテ第一編裁判所ノ末章タル「極事」立
會ニ関スル規定ニ至テハ全ク特異ニシテ此規
定ハ則チ人ノ知ル佛蘭西ノ判規ヲ因襲シタル

ナリ即チ其規定ニ依ルニ國家府縣郡區町村社
寺若クハ人團ノ關係スル事件官吏ノ職務上ノ
過失若クハ誤謬ニ付テ官吏ニ對スル請求ノ争
訟トナリ若クハ租税ニ関スル請求ノ争訟トナ
リタル事件人事權ニ関スル事件未成年者癡癩
人白痴人被禁治産者失踪者若クハ遺産ノ關係
スル事件管轄違ヒ權限違ヒノ抗辯起リタル事
件証書ノ真偽ヲ争フ事件又ハ再審事件ニ於テ
ハ裁判所ハ但シ治安裁判所ハ重要ノ場合ニ限
リ、口頭審問ヨリ少ク凡三日目前ニ其裁判所ハ
事ニ之カ通知ヲナシ以テ適當ト思惟スル場合
ニ其意見ヲ陳述スルノ機會ヲ與フヘシ總一テ
其他ノ事件ニ於テモ極事ハ口頭審問ニ立會ハ

之メフレニ一裁判所ニ立會ハシテ請法
スルヲ得ヘシ換事其意見ヲ陳述セシト欲スル
片ハ口頭審問ノ終末ニ於テ發言ス換事ハ裁判
所ノ評議ニ立會フテ得ル換事ニ事件ノ通知
ヲ十廿、ニ此又其通知ヲ受ケテ換事口頭審問
ニ立會ハス若クハ立會フテ意見ヲ陳述セザル
氏當事者ハ以テ何如ナル上訴ヲモテス一ヲ得
サレナリ蓋シ以テ等ノ規定タル實地ニ於テ困難
ヲ生スルハ免ル可ラザル所ニシテ其實地ノ困
難ハ治安裁判所換事ノ資格ヲ定タルニ付テ殊
ニ之アルヘシ然ルニ其困難ノ何如ハ充方之ヲ
明ニヒザリシヤ殆ト疑ナシ其他右ノ規定ニ付
テハ極メテ危疑ムヘキモノ尚之アリトス

然リ而シテ換事ヲ民事訴訟ニ參與セシムルハ
獨リ右ノ規定ノミナラズシテ其規定尚又外ニ
存スルナリ即チ管轄裁判所ヲ定ムルノ申請ヲ
上級裁判所ニ送テ裁判シ及ヒ判事ノ忌避ヲ裁
判スルニハ先ソ書面ヲ以テ換事ノ意見ヲ尋又
ハク又訴訟費用ノ支辨猶豫ヲ允許スル一其允
許ヲ先許ノ要件初ヨリ具存セス若クハ既ニ消
滅シタルヲ以テ取消ス一及ヒ支辨猶豫ノ先許
ヲ得タル當事者自己及ヒ家族ノ又メ必要ナル
給養ヲ害ナハスニテ其ノ一時猶豫ヲ得タル金
額ヲ追辨スルヲ得ルニ至リタル其追辨ノ義
務ヲ裁定スルハ皆受訴裁判所換事ノ任ナリト
ス

第二編ハ訴訟能力、當事者死亡ニ若クハ訴訟能
 力ヲ喪失シ又ハ當事者未タ訴訟能力ヲ得ル
 = 其法律上代人死亡ニ若クハ其代理権絶止ニ
 ヲルノ場合ニ於ケル手續ノ中止、共同訴訟、訴訟
 参加、訴訟代理及ヒ訴訟輔佐、訴訟費用、保証及ヒ
 訴訟費用ノ支辨猶豫ヲ規定スルモ、
 規定ヲ立ツルヤ全ク我訴訟法ノ少ク規定ヲ兼
 襲シ或ハ其文字ノ終ニ因リタルモ、
 トセス因テ其規定ヲ茲ニ一々掲出セス、
 要ナル差違ヲ示スニ止リ、
 如シトス、
 家子及ヒ有夫ノ婦ノ訴訟能力ニ関シテハ、
 一モ

別段ノ規定ナシ
 前掲ノ場合ニ於テ手續ヲ中止シタル片ハ其相
 続人ヨリ若クハ其相続人ヲ指名シテ對手人ヨ
 リ、其法律上代人若クハ其新規ノ法律上代人ヨ
 リ、若クハ其代人ヲ指名シテ對手人ヨリ手續ノ
 續行ヲ申立ツル迄ハ其中止在続スルモ、
 テ當事者死亡ノ場合ニ對手人其申立ヲナス片
 ハ裁判所ハ口頭審問ノ期日ヲ定メテ其對手人
 カ指名シタル相続人ニ右申立ノヲ通知ス、
 キナリ然ルニ相続人其期日ニ出席セス若クハ
 出席シタルモ其相続人タル資格ヲ自認シテ
 述ヲナシ、片ハ其資格ヲ自認シテ訴訟ヲ継
 続スルモ、ト見做サレ、
 十九

ナシト論争スル中ハ本案ノ審問ヲ拒絶シテ先
ツ其資格ニ関スル審問裁判アラントテ申立ツ
ルノ権アリトス而シテ判決ヲ以テ其資格アリ
ト断定シタル中ハ其判決ノ確定スル迄以降ノ
手續ヲ延引スヘキナリ
二名以上ノ人ヨリ若クハ二名以上ノ人ニ對シ
テ訴ヲ起シタル場合ニハ裁判所ハ其二名以上
ノ人カ共同訴訟人トシテ相偕ニ訴ヲ起シ若ク
ハ起セルハ一ヲ得ルノ要件具存スルヤ否ヤヲ
職權ヲ以テ査問スヘキナリ而シテ其要件具存
セサル中ハ一訴訟ヲ以テ數請求ヲ主張スル
ヲ差止メ一名若クハ二名以上ノ原告カ各別ノ
訴ヲ起スニ任スヘシ此裁判ハ之ヲ論攻スルヲ

得ス
補助参加ハ本訴ノ如クニ受訴裁判所ニ提出ス
ハク又本訴ノ如クニ之ヲ取扱フヘシ但シ準備
書面ノ交換ハ之ヲナリ、ルナリ又当事者ニ於
テ補助参加ニ異議ヲ容ル、中ハ決定ヲ以テ參
加ノ許否ニ関スル裁判ナリ或ハ法律上取上
ク可ラサル參加ナル中ハ職權ヲ以テ之ヲ毛之
ラ退休スルノ決定ヲナスヘキナリ此等ノ決定
ハ亦之ヲ論攻スルヲ得ス
訴訟告知ハ本業ノ裁判所ニ申請ヲ提出シテ以
テ之ヲナス其申請ニハ訴訟告知ノ理由及ヒ訴
訟ノ状況ヲ擧クルヲ要スルナリ然ル中ハ訴訟
裁判所ヨリ訴訟ノ對手人ヲモ示シテ以テ其訴

訴訟告知ノ副本ヲ其告知ヲ受クル第三者ニ送達
セシム

代言使用ノ強制ハ之アルナシ故ニ当事者若
クハ其法律上代人ハ每常自身若クハ代人ヲ以
テ訴訟ヲナストテ得ヘク又代人ト共ニ出廷ス
ルトテ得ヘキナリ代言人ニ非サル者ハ輔佐人
トシテ出廷スルヲ得ス又代言人ニ非サル者ハ
訴訟代人トシテ出廷スルヲ得ルハ受訴裁判所
ノ允許ヲ經ルヲ要シ且其允許ハ第一着ノ訴訟上ノ所
限ルナリ而シテ其允許ハ第一着ノ訴訟上ノ所
為ヲ行フノ前ニ故テ先ツ之ヲ請フヘキナリ但
シ其代人トナルモ其行務ニ付キ報酬ヲ請求ス
ルヲ得ス

訴訟代理ハ委任状ヲ以テ直々ニ之ヲ証明スヘ
ク其委任状ハ裁判記録ニ編入スルモノトス又
委任状ナシト虽モ口頭審問ノ期日若クハ受命
判事受託判事ノ前ニ故テ口頭ノ委任アリ之ヲ
調書ニ書キ確カメタル中ハ以テ能ク其委任状
ノ欠ヲ補フニ足ルヘキナリ
訴訟代理ハ又代人ヲ任シテ訴訟ヲ起シ再審ノ訴
ヲナシ和解ヲ以テ訴訟ヲ止メ訴訟ノ目的物ヲ
放棄シ對手人ヲ主張スル請求ヲ承認シ及ヒ訴
訟ノ目的物若クハ對手人ヨリ辯償スル費用ヲ
受領スルノ權ヲ包含セス
訴訟代理ノ依頼者死亡シ又ハ其訴訟能力若ク
ハ其法律上ノ代理權ニ異動ヲ生シタル中ハ訴

訟代理権ハ消滅スルモノトス但シ其代人ハ此
ノ如キ変動ヲ直チニ裁判所ニ届出ツルノ義務
アルナリ當事者本人ヨリ訴訟代理ノ廢罷ヲナ
シ及ヒ代人ヨリ其辞退ヲナス中モ亦直チニ裁
判所ニ届出ツルヲ必要トス而シテ裁判所ハ批
等ノ場合ニハ皆訴訟ノ對手人ニ之カ通知ヲ與
フヘク對手人其通知ヲ受クル迄ニ其代人ニ對
シテ取行フタル所為ハ皆其効力ヲ有スルナリ
又訴訟代人ニシテ死亡セ若クハ其訴訟ヲ続行
スルノ能力ヲ失フタル場合ニハ其手續ハ法律
ノ力ニ因リテ當事者本人カ或ハ自身或ハ更ニ
代人ヲ立テテ再々ヒ其訴訟ヲ続行スル迄中止
スルモノトス其ノ斯ク之ヲ続行スルカ否メニ

ハ裁判所ヨリ適當ノ期間ヲ定ムル其期間空
過シタルハ當事者之ヲ続行シタリト見做ス
ナリ
訴訟費用ヲ確定スルニ付テハ裁判所ニ於テ合
議裁判所ニ在テハ裁判長若クハ裁判長ノ命令ヲ
受ケタル判事ニ於テ費用ノ計算ヲ査閲シ以テ
其金額ヲ確定スルモノトス其確定ノ命令ハ確
定ノ申請ト共ニ必要ノ部數ヲ提出スヘキ費用
計算ノ謄本ニ添ヘテ之ヲ申請者及ヒ對手人ニ
送達スヘク其命令ニ對シテハ右當事者ヨリ七
日間ノ内ニ異議ヲ起スルヲ得其ノ異議ヲ起シ
タルハ裁判所ハ適當ノ場合ニハ對手人ノ陳
述ヲ聽キタル上決定ヲ以テ之ヲ裁判ス但シ口

頭審問ヲナシ、ルナリ其決定ニ對シテハ抗告
ヲナスルヲ得
訴訟ニ於テ立ツヘキ保証ハ当事者間ニ別段ノ
合意アラザルハ受訴裁判所ノ書記ニ寄託ヲ
ナシテ以テ之ヲ行フモ、トス
外国人原告若クハ原告ノ参加人タルハ被告
ノ請求ニ隨ヒ其訴訟費用ニ付キ保証ヲ出スヘ
シ然レモ左ノ場合ニハ其義務ヲ有セザルナリ、
國際條約ニ交互ノ担保アルハ、外国人ニ對シテ
日本裁判所ニ訴訟ヲ起シタルハ、外國人其訴ニ
對シテ反訴ヲナシタルハ、為替訴訟ノ片及ヒ公
訴ノ催告ニ依リ訴訟ヲ起シタルハ、即チ是ナリ
訴訟費用ノ支辨猶豫ヲ允許スルハ、既ニ前文ニ

掲クルカ如ク其受訴裁判所換事ノ裁定ニ任ス
ル所ナルカ故其允許ノ申請ハ書面若クハ口頭
ヲ以テ之ヲ右換事ニ提出ス、キナリ右換事其
申請ヲ正当ト見ルハ、允許状ヲ作りテ之ヲ其
無資力ノ当事者ニ發付シ、其ノ之ヲ裁判所ニ提
出スルニ一任ス、又其允許ハ再審査別ニ之ヲ與
フルニ非スシテ、一々ヒ之ヲ與フルハ其争訟中
ハ強制執行ノ際ニ至ル迄始終其効力ヲ存保シ
唯其允許ヲ與フルノ要件初ヨリ具存セズ若ク
ハ既ニ消滅シタルノ判然セルノ場合ニハ何時
ニテモ之ヲ取消シ得ヘキナリ、留保スルアルノ
三而シテ執行ノタメ、(但シ唯執行ノタメニシテ
送達ノタメニモ然ルニ非ス送達ハ職權ヲ以テ

之ヲ行フナリ其当事者ニ執達吏ヲ附スル其
執行ヲナスヘキ地ヲ管轄スル治安裁判所其中
請ニ依リ之ヲ許スナリ重要ノ場合ニ於テ其別
段ノ申請ニ依リ代言人ヲ附スルニ至テハ其命
又受訴裁判所ノ檢事ヨリ出ツ

第三

訴訟手續ノ普通規定ヲ立テタル第三編ノ頭初
= 左ノ數原則ヲ掲ケタリ曰ハク判決ヲナス
裁判所ニ於テナス当事者ノ争訟ニ関スル審問
ハ口頭ヲ以テス但シ此法律ニ口頭審問ヲナサ
スレテ裁判ヲ下スナリ規定ニテハ片ハ此限ニ
在ラズ裁判ハ口頭審問ヲナサ、ル片トモ合
議裁判所ニ在テハ要數ノ判事ヲ以テ充タシタ

ル裁判所之ヲ發スルハ法律廷外ニ於テ訴訟ヲ指
揮スル命令ヲ發スルハ合議裁判所ニ於テハ裁
判長若クハ裁判長ノ命ヲ受ケタル判事之ヲナ
スト

又曰ハク口頭審問ハ書面ヲ以テ之ヲ準備ス上
此準備書面ノ記載事項ハ大要全リ我訴訟法第
百二十一條百二十二條ニ相同シ但シ既ニ前文
ニ掲ケルカ如ク代言使用ノ強制ヲ取ラザリシ
ヲ以テ其訴訟ニ関スル我法ノ規定ハ之ヲ載セ
ザルナリ
書面ノ方式ニ関スル規定ニ至テハ頗ル嚴重
= 之ヲ又特異ナリ即チ其規定ニ依ルニ書面ハ
皆本人ノ自筆署名及ヒ捺印アルヲ要シ書面數

葉ヨリ成シ片ハ毎葉契印ヲ施スヘシ本人自ラ
署名ヲナシ若クハ自印ヲ押捺スルヲ能ハサル
片ハ官吏ノ面前ニ於テ其書面ヲ作ル場合ノ外
ハ代人之二署名捺印シテ其支障ノ事由ヲ記載
スヘシ書面ハ之ニ捺削ヲ加フルヲ得ス若シ行
間若クハ欄外ニ文字ヲ挿入シ或ハ文字ヲ塗抹
スル片ハ其場所ニ其字數ヲ掲ケテ捺印スヘシ
文字ヲ塗抹スルニハ其字体ノ尚明瞭ニ讀ミ得
ヘキ様塗抹スヘキナリ
書面ハ其附屬書類及ヒ對手人ニ交付スルカ
キニ必要ナル謄本ト共ニ当事者之ヲ裁判所
書記ニ差出スヘク或ハ自己ノ危險ヲ以テ之ヲ
郵送スルモ可ナリトス其書面裁判所ニ到達シ

タル片ハ書記ハ直々ニ其到達ノ時日及ヒ附屬
書類等ノ部數ヲ之ニ附記シテ捺印ス
口頭審問ノ準備ノ用ニ供スル書面ノ記載事項
及ヒ方式ニ関スル規定凡ソ右ノ如シトス此規
定ハ訴訟ニ関シテ当事者若クハ当事者外ノ人
ヨリ裁判所ニ提出スル申請書陳述書通知書具
告書等ニモ相当ニ適用スヘキナリ又口頭ヲ以
テ其申請等ヲナストテ其訴訟法ニ許シタル場
合ニ於テハ書記其本人ノ費用ヲ以テ之ヲ調書
ニ記載スヘキナリ
口頭審問ニ関シテハ我訴訟法第百二十七條ノ
規定ヲ文字ノ供移用セリ而シテ尚規定シテ曰
ハク凡ソ口頭審問ニ據リテ發スル裁判ハ之カ

言渡ヲナスヲ要ス他ノ裁判ハ其正本ヲ作リラ
之ヲ当事者ニ送達スヘシ裁判ヲ三者ニ関係ヲ
有シテ芽三者其言渡ノ際ニ在席セザルハ之
カ言渡ヲナスノ外尚其正本ヲ作リテ芽三者ニ
送達スヘシ芽三者ハ尚其言渡ノ際ニ在席シタ
ルハ、雖モ其正本ヲ請求スルノ權ヲ有スト
次ニ手續審判ノ公行及ヒ法廷取締ニ関スル規
定并ニ裁判所ノ用語ニ関スル規定アリ其大要
皆我裁判所構制法第百七十条乃至第百九十三
条ノ如シトス而シテ法廷ニ於テ不敬ノ所為
ル者ハ常人ナル中ハ二十日以下代官人ナル中
ハ五十日以下ノ科料ニ處ス通事若クハ聾者
者モ其署名ニ捺印スヘキナリ

又其次ニハ送達先ニ期日期間及ヒ期日期間ヲ
怠リタルノ結果ニ関スル規定アリ是レ亦在ク
我法ノ如シトス故ニ又稍々重要ノ差違ヲ示ス
ニ止ムヘシ其差違即ケ左ノ如シ
送達ハ郵便ヲ以テスルヤシ又当事者ヨリ行
フ送達ナルモノヤク必スヤ書記其職權ヲ以テ
執達吏ニ送達ノ依頼ヲナシ若クハ其裁判所ノ
管轄區外ニ送達ヲナス場合ニハ其送達地ヲ管
轄スル治安裁判所ノ書記ニ其依頼ヲ囑託スヘ
キナリ其送達ヲ終ハリタル上ハ送達証書ヲ訴
訟記録ニ編入ス
訴訟裁判所ノ所在地ニ住居セザル当事者ハ當
對手人ノ申立裁判所ノ命令アル中ニ送達代

受者ヲ置クヲ要スルノミナラス送達書類ヲ受
領スルカタメニハ其申立其命令ナシト雖凡必
ス右ノ所在地内ニ住居スル第三者ノ許ニ其住
居ヲ定メテ之ヲ裁判所ニ届出ツルノ義務アリ
トス然ラズンハ進テ其届出アル迄ハ之ニ送達
スヘキ書類ハ毎ニ裁判所ノ揭示板ニ揭示シ以
テ其送達ヲ行フタレモトナスナリ其揭示ニ
付テハ訴訟記録ノ中ニ懲憑ヲ留ムヘシ(佛法ヲ
摸倣セシ此送達上ノ住所ノ以降ノ適用ニ関シ
テハ尚後文ニ述フル所アルヘシ)
当事者訴訟代人ヲ立テ、其代人其委任ノ趣旨
ニ依リ当事者ヲ代理スルノ権アル片ハ其代人
ニ送達ヲ行フナリ

家主若クハ賃貸人ニ對スル代受送達ノ制ハ之
ヲ採用セサリキ
送達ノ名宛人若クハ送達ヲ代受ニ得ヘキ者見
当ラサルヲ以テ送達ヲ行フ不能ナル場合ニ
ハ執達吏ハ其書類ヲ戸長若クハ區長ニ交付シ
戸長區長ハ送達書ノ受領ノ部ニ捺印シテ其書
類ヲ受取人ニ渡スカタメ相当ノ幣ヲ執ル
治外法權ヲ有スル人ニ送達ヲナシ外國ニ於テ
送達ヲナシ及ヒ通常ノ兵營外ニ此駐スル軍隊
若クハ艦装シタル軍艦ニ屬スル者ニ送達ヲナ
スニ付テハ裁判所ヨリ成規ノ事務手續ヲ踐テ
司法大臣ニ報告ヲ提出シ司法大臣ヨリ必要ノ
囑託書ヲ發スルナリ

公示送達ハ其ノ送達ニキ書類ノ抄本ヲ裁判
所ノ掲示板ニ提示シ及ヒ尚裁判所ノ思量ニ因
リテハ之ヲ新聞ニ廣告シテ以テ之ヲ行フナリ
而シテ第一回ノ公示送達ハ之ヲ掲示板ニ掲示
シ若クハ新聞ニ廣告シタルヨリ十四日ヲ経過
スル中ハ之ヲ行フタルモトナシ同一ノ事件
ニ関スル其以後ノ公示送達ハ都一テ之ヲ掲示
板ニ掲示スルヲ以テ直チニ之ヲ行フタルモ
トナス
期日期間ニ関スル規定ノ中ニハ当事者ヨリ行
フ呼出、代言、訴訟及ヒ当事者ヨリ行フ送達ト相
連係スルノ規定ハ都一テ之ヲ欠ケリ其他裁判
所ノ休暇ト相連係スルノ規定ヲモ存セス是レ

亦裁判所ノ休暇ニ関スルノ規定アラサルヲ以
テナリ
期日期間ヲ定ムルニハ当事者ヲシテ審問ヲ受
クルニ適當ノ準備ヲナシ且判事ノ指命ニ應ジ
得ヘキ時間ヲ得セシムルヲ要スルナリ而シテ
此呼出期間及ヒ法定裁定ノ期間ヲ算スルニ当
リテハ裁判所ノ所在地外ニ住居スル人ノタメ
ニハ其ノ所在地ニ来ルカタメ若クハ其ノ陳述
ヲ裁判所ニ致スカタメニ要スル時日ヲ除ク之
ヲ算スヘク其算除方即チ陸路ハ八里ヲ以テ一
日程八里未滿ト雖モ三里以上ナル中ハ亦一日
程トシ水路ハ四里ヲ以テ陸路ノ八里ニ準スル
リ但シ外國ニ向テ呼出ヲナス場合ニハ裁判

所ノ思量ヲ以テ事状ニ應ジ其算除ス一キ路程
日數ヲ定ムルモトス
緊急期間ノ遲滯ニ對スル旧状回復ノ制規ハ之
ヲ採用セズ之ヲ採用セズシテ辨償命令ニ對ス
ル異議控訴上告故障抗告及ヒ再審ノ訴ノ如キ
孰レモ期間ニ拘束セラル、法助手段ニ関シテ
一々異常ノ救助方ヲ立テラレタリ此点ハ尚後
文ニ於テ述フヘシ然レモ其以下ノ全リ同様ナ
ル場合一ヲ遺過シタルヲ憾ムナリ即チ上告ノ
受理不受理ニ関シテハ上告人ヲ呼出シテ前審
問ヲ開キ以テ別ニ裁判ヲナシ上告人ノ力期日
ニ出席セサルハ上告ヲ顯下ケタルモト見
做スナリ然ルニ此遲滯ニ對シテハ天災其他避

ク可ラサル偶然ノ出来事ノタメニ然リシ場合
ト虽モ亦救助ヲ許スナシ
第三編ノ末章ヲ訴訟記録ノ外制ニ関スル二三
零碎ノ規定ト人然レモ大體ニ於テハ尚亭園ノ
法規ト相符合ヒリ而シテ尚數規定アリ曰ハク裁
判所若クハ其官吏ノ作リルハキ調書裁判書及
ヒ其他ノ書類並ニ其正本謄本及ヒ抄本ニハ年
月日場所裁判所ノ印章及ヒ其官吏ノ署名捺印
ヲ具フヘシ若シ裁判所ノ印章ノ押捺ムルニ能
ハサルハ其支障ノ事由ヲ掲クハシ毎葉ノ契
印文字ノ捺印捺入及ヒ塗抹ニ関シテハ準備書
面ト同一ノ規定ニ因ルト
又曰ハク裁判所ニ提出シタル書面若クハ書類

又ハ調書裁判書ノ正本若クハ謄本ヲ所持スル
當事者ハ裁判所ノ求メニ應ジ之ヲ差出スノ義
務ヲリトス若シ之ヲ拒ミタルハ貳拾圓以下
代官人ハ五拾圓以下ノ料料ニ處スト
其他又我訴訟法第二百七十一條ヲ襲用シテ之
ニ附スルニ(當事者ハ)裁判所ノ允許ヲ得タル止
訴訟記録ヲ閲覧スルヲ得トノ程限ヲ以テセ
リ

第四

第四編ノ第一審手續ニ於ケルヤ我訴訟法ト同
ク先ツ第一段ニ始審裁判所ニ関シテ又唯始審
裁判所ニ関シテノニ周到ノ規定ヲ立テ次ニ治
安裁判所ノ通常手續ニ関シテハ獨リ其特別ノ

点ヲ掲規セリ

甲。始審裁判所ニ於ケル其手續ハ之ヲ分ツ左
ノ如シ口頭審問ニ至ル迄ノ手續、口頭審問、證據
採收、判決、及ヒ遲滯判決即ケ是ナリ而シテ證據
採收ハ又之ヲ分ツテ其普通規定各種ノ證據方
法及ヒ證據保全ノ三目トス
其一。其手續ノ採行方ニ至テハ私操行(ハルタイ)ニ
非ス官操行(カウシヤ)ニシテ即ケ中止ノ手續ヲ再々
と施行スルノ方法補助參加及ヒ訴訟告知ノ提
出ニ関スル前掲ノ規定ニ於テ既ニ然ル如シト
ス是故ニ訴ハ訴狀ヲ裁判所ニ提出シテ以テ之
ヲ提起スヘキナリ訴狀ノ記載事項ハ我訴訟法
第二百三十條ニ定ムルカ如シトス其他確定ノ

訴^(ノニムトクテ)ハ全ク我訴訟法第二百三十一條ノ如ク事件ノ合訴^(ラカケケイゴ)モ亦我訴訟法第二百三十二條第一項ノ如クニ之ヲ許シタリ但々事件ノ合訴ニ関シテハ請求ノ種類相同シカラムニテ其原因亦主要ノ牽連ヲ有セサルモノハ之ヲ合訴スルヲ得スト云フ程限アリ

之ニ次テ、訴状若シ双方ノ當事者、争訟ノ目的物、原告ノ請求ノ因テ起ル事實、及ヒ一定ノ申立ヲ掲ケサル場合ニハ訴訟ヲ指揮スル命令ヲ以テ原告ニ其欠缺ヲ補全スルヲ余スヘク原告之ヲ補全セサル片ハ其訴ヲ却下スヘシトノ規定アリ是レ亦手續ノ操行ヲ官操行ト定メタルヨリ生スルノ結果ニシテ裁判所カ共同訴訟及ヒ

補助参加ノ法律上受理スヘキモノナルヤ否ヤヲ査閱スヘキ前掲ノ義務ト相符合セリ

訴ヲ送達スル片ハ事件ノ拘束茲ニ成リ我訴訟法第二百三十五條及ヒ第二百四十條ニ定ムルカ如キ効果ヲ生スルナリ

既ニ起シタル訴ノ願下ケハ口頭審問ノ際ニ其陳述ヲナスニ非サレハ裁判所ニ書面ヲ提出シテ以テ之ヲナスモノニシテ若シ被告ノ承諾ヲ要スル片ハ其承諾ヲモ書面ニ添付スヘキナリ

既ニ訴ヲ送達シタル場合ニ至テハ裁判所ヨリ其書面ノ副本ヲ被告ニ送達ス其他ハ皆我法ト相同シ

成規ニ適ヘル訴状ノ副本ハ十四日内ニ、若シ外

呼出スナリ而シテ其日取ハ呼出ノ送達ト期日
トノ間ニ七日以上ノ期間アルヲ必要トス外國
ニ送達ヲナス場合ニハ事状ニ隨ヒ其期間ヲ定
ムヘシ
準備書面交換ノ期間ハ當事者ノ申立ニ依リ裁
判長ノ別段ノ命令ヲ以テ適宜之ヲ延長スル
ヲ得又毎書面ニ付キ三日間迄ニ之ヲ短縮スル
一ヲ得ルモノトス
急速ノ事件ニ於テハ當事者ノ申立ニ依リ起訴
以後ノ書面交換ヲ行ハスレテ口頭審問ノ期日
ヲ開キ得ハキナリ七日ノ呼出期間ニ至テハ
此場合ニ於テモ亦本來之ニ抑ルハキモノナレ
凡切迫ノ危険アルキハ別段ノ命令ヲ以テ之ヲ

其副本ヲ原告ニ送達ス而シテ答弁書ニ抗弁若
クハ反訴ノ掲ケル場合ニハ原告ハ七日内ニ再
訴状ヲ提出スルヲ得ヘク再訴状到達シタルキ
ハ其副本ヲ被告ニ送達ス再訴状ニシテ真正ノ
再訴若クハ反訴ニ對スル抗弁ヲ掲ケルキハ被
告ハ七日内ニ再答弁書ヲ提出スルヲ得ヘキナ
リ再答弁書ヲ送達シタル上ハ又準備書面ノ交
換ヲ許サハルモノトス再訴状及ヒ再答弁書ニ
關シテハ訴状及ヒ答弁書ニ關スル規定ヲ相應
ニ適用スハキナリ
準備書面ノ交換既ニ終リ又ハ準備書面ノ提出
ノ放棄アリ若クハ其期間既ニ経過シタルキハ
直ニ口頭審問ノ期日ヲ定メテ當事者双方ヲ

國ニ送達ヲナス場合ニハ事状ニ隨ヒ定メタル
期間内ニ、答弁書ヲ差出スヘシトノ催告ヲ之ニ
附シテ裁判所ヨリ被告ニ送達スヘキナリ此答
弁書ハ準備書面ニ関スル普通規定ニ依リテ之
ヲ作リ原告ノ請求ニ對スル陳述被告カ提起ス
ル不服ノ理由トナルヘキ事實證據方法及ヒ一
定ノ申立ヲ掲クルヲ必要トス尚規定スルニ訴
ニ付キ設ケタル所ノ確定ノ訴及ヒ合訴ヲナシ
得ヘキ一訴訟ヲ指揮スルノ命令ヲ以テ却下ヲ
大人ト及ヒ事件ノ拘束、願下ノ一ニ関スル規定
ハ答弁ニモ亦之ヲ相應ニ適用スヘシト云フヲ
以テセリ
成規ニ適ヘル答弁書裁判所ニ到達シタルハ

二十四時間迄ニ短縮スルヲ得
其二〇口頭審問ニ関シテハ先ツ我訴訟法第百
二十八條第一項乃至第三項第百二十九條第百
三十條第一項第二項及ヒ第百三十一條ノ規定
襲用シタル上尚左ノ如ク規定セリ、陪席判事ハ
裁判長ノ許可ヲ經テ當事者ニ對シ我カ問ハシ
ト欲スル所ヲ問フヲ得當事者ハ對手人ニ對
シテ自ラ問フナスヲ得先ツ裁判長ニ其申立
ヲナシ裁判長ヲシテ其問ヲナサシムヘシ當事
者問ハル、モ答ハス若クハ之ニ確答セサルモ
ハ對手人ノ利益トナルヘキ答ヲナシタルモノ
ト見做スヲ得ト
妨訴ノ抗弁ハ我訴訟法第百四十七條及ヒ第

二百四十八條ト同様ノ規定ニ依リテ之ヲナシ
得ヘキナリ唯其ノ異ナル所ハ其抗弁ニ関シテ
特ニ先ツ審問裁判ヲナスニハ毎ニ被告ノ申立
之アルヘリ其抗弁証拠ヲ要スルモノナル片ハ
直チニ之ヲ疏明スヘシ口頭審問ヲ始メタル後
ニ至リテハ被告ノ人決シテ其抗弁ヲ起スヲ得ス
裁判所ハ被告ノ故意ニ訴訟ヲ延滞セシムル
ヲ防カンカクシテ申立ニ依リ本案ノ審問ヲ余
ルノ權ヲ自由ノ思量ヲ以テ行用ス但シ本案ノ
判決ヲ發スルハ必スヤ右抗弁ノ判決確定シタ
後ヲルヘシ本案ニ関シテ先キニ既ニ準備書面
ノ交換ヲナシタル片ハ又更ニ之ヲ余スルナ
シトスルノ數点トス

又攻撃及ビ保護ノ方法並ニ証拠方法証拠抗弁
ニ関シテモ同ク我訴訟法第百五十一條第ニ
百五十二條及ビ第百五十六條ノ如クニ規定
ヲ立テ且右第百五十二條ノ規定ヲシテ攻
方法証拠抗弁方法及ビ証拠抗弁ノ上ニ延及セ
シタルリ然レ氏他ノ一方ニハ又左ノ決シテ輕カラ
サル制限ノ設ケアリ即チ反對ノ請求ハ相殺ノ
ヲトスルト反訴ヲ以テ人ルトフ同ハス唯答
兼書ニ於テノ之ヲ主張スルヲ許ハリ其以後
ニ於テハ原告ノ請求若クハ原告ノ請求ニ對シ
テ提出スル抗弁ト法律上相牽連スルモノニ非
サレハ復タ之ヲ主張スルヲ得ス然レ氏準備書
面ノ交換ヲナサ、リシ片ハ不牽連ノ反對請求

ト虽モ被告ハ相殺ノタメ若クハ反訴ヲ以テ本
案口頭審問ノ終結迄ニ之ヲ提出スルノ確アリ
トス反對請求ニ関スル右規定ノ外ハ書面ノ提
出ナキモ本案ニ関シテ權利上ノ不利益ヲ生セ
スト虽モ當事者若シ先キニ書面ヲ以テナスハ
カリシ申立若クハ事實ノ主張ヲ口頭審問ノ際
始テ提出シテ相手人其準備ヲ欠クカタメニ之
ニ對シテ陳述ヲナスコトヲ得ヌタメニ審問ヲ延
期スルノ必要ヲ生シタル中ハ之カタメニ生シ
タル費用ヲ其遲滞ノ責アル當事者ニ課ス因テ
當事者若シ先キニ書面ニ掲ケサリシ申立若ク
ハ事實ノ主張ノ對手人先ツ穿索ヲナスニ非サ
レハ之ニ對シテ陳述スルコト能ハサルヘシト思

五。

ハル、モノヲ提出セント欲スルハ準備書面
ヲ以テ口頭審問ニ先ツ少ク氏三日前ニ對
手人カ其副本ノ送達ヲ受クハキ様速ニ之ヲ裁
判所ニ提出シ以テ右ノ不利益ヲ避ケハシト
其他我訴訟法第二百五十四條及ニ第二百五十
五條第一項ノ規定ヲ移用シ次ニ一般ニ左ノ如
ク定メタリ即ケ當事者口頭審問中ニ行フハキ
訴訟上ノ所為ヲ其審問中ニ行ハサルハ復々
之ヲ行フヲ得ヌ此權利上ノ不利益ハ口頭審問
ノ終結ト共ニ自然ニ出來スト
次ニ裁判所ニ與フルニ亦我訴訟法第二百六十
八條及ニ第四百三十八條乃至第四百四十三條ニ於
テ之ニ與ヘタル權利ヲ以テシ附人ルニ左ノ程

限ヲ以テセリ即チ勸解ニ不参シタル當事者ニ
ハタメニ無用ニ属シタル其期日ノ費用ヲ負ハ
シムヘシ犯罪ノ嫌疑アルキハ審問ヲ延引スヘ
シ審問ヲ延引スルノ命令ニ對シテハ又唯此余
令ニ對シテノ抗告ヲ為スルヲ得相當ノ演述
ヲナスノ能力欠缺スルカタノ以降ノ演述ヲ差
止メタル當事者ニハ新期日ヲ定ムルト同時ニ
自己ノタメ訴訟代人ヲ立ツヘキヲ余スヘシ
當事者此余ニ從ハサルキハ之ニ對シテ其適意
ニ自ラ退廷シタルト同断ノ取計ヲ請求ニ依リ
ナスヲ得代理人ニ非サル代人も亦其用ヲ十
サ、ルノ故ヲ以テ之ヲ退斥スルヲ得之ヲ退
斥シタルキハ更ニ期日ヲ定メテ其期日ハ呼

出ヲナスノ際當事者ニ其退斥ノ決定ヲ送達ス
ヘク其呼出ニハ又代言人ニ非サル代人ハ以後
之ヲ許サ、ルヲモ開示スルヲ得ト
次テ原告其請求ヲ放棄シ被告原告ノ請求ヲ或
ハ裁判所ニ於テ或ハ書面ヲ以テ是認シタルキ
ハ其争訟ハ何如ナル状況ニ在ルヲ問ハス終結
ス但シ其對手人ハ放棄ノ場合ニハ即時却下ヲ
テサ、ルヲ申立テ是認ノ場合ニハ即時勝訴ノ
判決ヲ與ヘラレ、ルヲ申立ツルヲ得ト定メ
タル後我訴訟法第百四十五條第百四十六條第
百四十八條第百四十九條第一項第百五十條及
己第百五十一條ノ規定ヲ掲出セリ勿論其中ニ
ハ二三ノ差違アレ氏其差違ハ他ノ規ツルリシ

テ自然ニ生ズルモノニ非サレハ則テ重要ニ非
サルモノタルノミ
三〇「^レ證據」^ハ方法ノ種類ヲ證人鑑定人證書檢證
及ヒ當事者ノ自證ニ分ケ以テ之ヲ明許シタル
其前ニ掲クル證據採收ノ通則ニハ其發端トシ
テ左ノ數規定アリ曰ハク各當事者ハ其攻撃若
クハ保護ノ方法ノ理由トスル事實ニ関シテ舉
證ノ義務アリトス原告ハ其ノ提起シタル請求
ノ成立スルニ必要ナル事實被告ハ其請求ノ成
立ヲ妨ケタル事實若クハ其請求ノ成立ハ之ヲ
リシモ次テ再々ニ廢滅シ無効ニ屬シ若クハ制
限ヲ生シタル事實ヲ證明ス、シ其他各當事者
ハ其以降ノ攻撃若クハ保護ノ方法ノ重要ナル

理由トナル事實ヲ同様ニ證明ス、シ事實ヲ證
明若クハ辯誤ハ其ノ證明人ハキ事實ノ真實ナ
ルト若クハ不真實ナルトヲ因リテ以テ推明シ
得ヘキ他ノ事實ヲ明瞭シテ以テ之ヲナムトヲ
得ト
次テ我訴訟法第二百五十九條乃至第二百六十
四條及ヒ第二百六十六條ノ規定アリ然レモ其
中判事力心證ヲ得タル所以ノ理由ヲ判決ニ掲
クルト損害若クハ利益ヲ舉證人ニ於テ評價ス
ルト及ヒ宣誓ヲ推付スルトニ関スルモノハ之
ヲ省キ宣誓シテ評價ヲナシムルトニ代ヘテ
裁判所ニ典フルニ其當事者自身ト虽モ之ヲ證
人トシテ證人ニ関スル普通規定ニ依リ職權ヲ

以テ之ヲ尋問ニ而カモ之ヲ尋問スルニ他ノ証
據採收ノ申立アリタルト否トニ相関セズシテ
之ヲナスルヲ得ルノ權ヲ以テセリ尚書面ヲ以
テ若クハ他ノ筆認ニ於テナシタル自白若クハ
裁判外ノ自白ノ効力ハ之ヲ判事ノ裁断ニ委ス
トノ定メモ之アリトス入疏明スヘキ主張ノ真
実ナルヲ宣誓ヲ以テ確保シ得セシムルヲ以
代フルニ証人トシテ其主張ノ真実ヲ尋問スル
ヲ得ルヲ以テセリ
裁判所ハ當事者ノ指定シタル証據方法外ニ出
テ職權ヲ以テ其筆認ヲ審閱スルノ權ヲ有サル
ナリ但シ左記ノ場合ハ之ヲ例外ニ置ケリ(一)事
外國ノ現行法内國ノ地方習慣法商業習慣若ク

ハ町村ノ定規其他人團ノ申合規則ニ関スルモ
裁判所其問題ニ係ル原則ヲ知ラサル中ハ當事
者ノ申立ナシト虽モ必要ノ調査ヲナスヲ得
(三)事ノ状況他ノ方法ヲ以テ明ニス可ラサルニ
於テハ裁判所ハ職權ヲ以テ換証若クハ鑑定ヲ
命シ又當事者ヲ証人トシテ尋問スルヲ得ト
定メタルヲ即チ是ナリ
証據採收ニ至ラハ我訴訟法第三百二十條ノ規
定ヲ襲用セリ但シ他ノ裁判所ト云フヲ治安裁
判所ト改メタリ
當事者ハ何如程其ノ指定シタル証據ヲ舉クヘ
キヤ是レ裁判所ノ定ムル所トス証據ノ採收若
シ當事者演述ノ後直チニ之ヲ行フヲ得ス則チ

或ハ新期日ニ訴訟裁判所ニ於テ或ハ受命判事
若クハ受託判事ノ之ヲ行フ場合ニハ證據採收
ノ決定ヲ以テ之ヲ命スヘキナリ
其決定ノ記載事項ハ我訴訟法第三百二十四條
ニ定メタルカ如シトス但シ宣誓ノ式詞ニ関ス
ル一目ノ之ヲ存セス其決定ノ之ヲ論攻スルヲ
得ス又其決定ノ職權ヲ以テ之ヲ結了スヘキナ
リ
受命判事若クハ受託判事ノ證據採收ノ之ヲ公
行セサルナリ但シ當事者ニハ其證據採收ノ期
日ヲ通知スヘク而シテ當事者ノ一方若クハ雙
方不参スルアリ比事状ニ於テナシ得ル限リハ
尚其證據採收ヲ行フナリ又其際ニ異論出テ受

命判事若クハ受託判事ノ之ヲ決着スルノ權ヲ
スルハ其異論ノ裁判ノ之ヲ受託裁判所ニ任カ
スヘク其證據採收ニ至テハ其異論ノ裁判何如
ニ因ルヘキモノ外ハ尚之ヲ續行ス其證據採
收ニ於テノ審問ニ関スル調書ハ談判事ノ之ヲ其
元本ヲ以テ受訴裁判所ニ交付シ若クハ送付ス
ルモノトス然ル中ハ受訴裁判所ヨリ當事者ニ
通知ヲナスヘキナリ
外國ニ於テ行フヘキ證據採收ハ其外國ノ所管
廳若クハ其外國駐在ノ公使領事ニ囑託シテ以
テ之ヲ行フナリ其囑託書ニ関シテハ外國ノ
送達ニ関スル規定ヲ相應ニ適用ス
證據採收ニ関スル普通規定ハ我訴訟法第三百

二十一條ノ旨意ヲ襲用シタル上左ノ規定ヲ掲
ケテ以テ終結セリ
証拠採収ノ結果ニ関シテハ受訴裁判所ニ於テ
當事者ヲ口頭審問ス此審問ハ受訴裁判所ニ於
テ証拠採収ヲナシタル場合ニハ其証拠採収ノ
後直々ニ之ヲナスヘキナリ但シ更ニ其期日ヲ
開ク一ノ適當ト思惟スル中ハ此限ニ在ラズ受
命判事若クハ受託判事ノ証拠採収ヲナシタル
場合ニハ其証拠採収ニ関スル調書ノ裁判所ニ
到達シタル上其口頭審問ノ期日ヲ開クヘシ
當事者ノ一方右審問ノ期日ニ不参シタル場合
ニハ出廷シタル當事者ノ申立ニ依リ其レ迄ノ
審問ノ結果ト其當事者ノ演述ニ從テ裁判ヲ下

スナリ此場合ニ於テ若シ其ノ出廷シタル當事
者ヨリ新々ナル提擧ヲナス片ハ不参ノ當事者
ニ對シテ取計ノ一猶出廷シテ審問ヲ受ケタル
七其對手人ノ提擧ニ對シテ陳述ヲセズ若クハ
之ヲ拒ミタル當事者ニ對スルカ如クナル一キ
ナリ當事者一シテ若シ双方共不参シタル場合
ニハ九ソ口頭審問ノ期日ニ双方共不参シタル
場合ニ付キ定メタル規定ヲ相應ニ適用スルモ
ノトス此規定ハ之ヲ後文ニ示スヘシ
其裁判ヲナスニ付テハ裁判所ハ証拠採収ノ決
定ノ旨意ニ拘束セラレ、一ナシ

證據採收ヲナレタルモ其事件未夕裁判ヲ下ス
造ニ熟ヒスト思惟スル片ハ裁判所ハ証拠採收
ノ補完ノ決定スルヲ得ルモノトス又一當事
者ノ不参シタルカタメニ證據採收ノ一部若ク
ハ全部ヲ行フノ能ハカリシ場合ニハタメニ其
手續ノ遅延スルヲナク若クハ舉證者其過失ニ
非ラズシテ前期日ニ出頭スルヲ能ハカリシ
ヲ疏明スルニ於テハ申立ニ依リ其追行若クハ
追備ヲナシ得ヘキナリ
裁判所ハ適當ノ期間ヲ定メ以テ證據採收ノ費
用ヲ豫納スルキヲ當事者ニ命ス、此命令
ハ之ヲ論致スルヲ得ス此命令ニ從ハザルハ
其証拠採收ヲ行ハス

口其各種ノ証據方法ノ中先ツ証言ニ関シテハ
其義務呼出及ヒ不参ノ結果ハ大要我法ニ定
ルカ如シトス其不参ノ罰トシテハ二十四以下
ノ材料ヲ料スルナリ又皇族及ヒ勅任官ノ証言
ヲナスヘキ場合ニハ受命判事若クハ受託判事
其居所ニ就テ之ヲ尋問ス
証言ヲ拒ムルヲ得ルハ左ノ如シ(一)刑法第百十
四條第百十五條ニ定メタル當事者ノ親族(三)當
事者ノ後見ヲ受クル人(三)當事者ノ僕婢其他當
事者ニ勤仕シテ其家ニ屬スル人(四)官吏若クハ
先キニ官吏タリシ者ハ其職事秘默ノ義務ヲ守
ルハキ事状ニ月ト(五)醫師藥劑總婆代言人公証
人若クハ教導職ハ其職務身分若クハ生業ノ為

ノニ信託ヲ受ケタルニ因リ知リ得タル秘密ノ
事實ニ付(六)自己若クハ親族ノ恥辱トナリ若ク
ハ其刑事訴追ヲ招クノ恐ルル事實ニ付(七)自
己若クハ親族ニ直接ナル財産法上ノ損害ヲ來
タスヘキ事實ニ付(八)技術若クハ生業ノ機密
ヲ洩ラスニ非ザレハ供述ヲナスニ能ハザル
即チ是ナリ但シ右ノ(二)及(七)ニ関シテハ我訴
訟法第百九十一條第一項第三項ノ規定ヲモ
饜用セラレタリ証人其証言ヲ拒絶シタル場
合ニハ受訴裁判所ハ當事者ニ尋問ノナシタル上
決定ヲ以テ其拒絶ニ関スル裁判ヲナスヘキ
由ノ正實ナルヲ宣誓ヲ以テ確保スルノ命

第三百九十一條ノ例外アリ又左

令スルヲ得若シ一方ノ當事者不参シタル場合
ニハ事ノ状況ニ依リ又出庭シタル當事者ノ提
舉ヲモ顧慮シテ其決定ヲ下スナリ其決定ニ對
シテハ舉証者及ヒ証人ハ七日以内ニ抗告ヲナ
スノ權アリトス抗告ハ停止ノ効力ヲ有スルナ
リ又証人其証言ヲ拒絶スルモ其理由ヲ示ス
ナク若クハ其示シタル理由終局ノ棄斥ヲ受ケ
タルニ尚其言ヲ拒絶スル片ハ申立ヲ要セス
テ証人ニ對シ其拒絶アリタルカ為メニ生シ
ル費用賠償ノ義務ヲ負ハシメ且四十以下ノ
科料ヲ料スルノ決定ヲ發スシ此決定ニ對シ
テハ証人ヨリ七日以内ニ抗告ヲナスヲ得此
抗告モ亦停止ノ効力アルモトス尋人ニ對シ

テ右ノ科罰ヲ確定シ且執行スルニハ其等級ノ
高下ヲ問ハス軍事裁判所ニ囑託シテ之ヲ下
ヘキナリ其他証人充分ノ理由ヲ示シテ裁判所
ニ出頭セス若クハ其理由ヲ示サズシテ証言ヲ
ナスコトヲ拒絶シ若クハ其理由ノ終局ノ棄作ヲ
受ケタルニ尚其証言ヲ拒絶スル片ハ拳証者ヨ
リ別段ノ訴ヲ以テ其タメニ生シタル損害ノ賠
償ヲ請求スルヲ得然ル片ハ反對ノ証人アル迄
ハ証人ハ其証言スヘキ事實ヲ証言シ得ヘカリ
レト見做スナリ
右ノ規定ハ証言ノ拒絶ノミナラス又証人宣誓
ヲ拒絶スルコトアルニ非スレテ愛憎畏懼ノ心ヲ
呼称スルコトアルニ非ス

ク全ク正實ニ供述ヲナスヘシ若クハナシタリ
ト云フニ在リトス但シ豫メ偽証ノ罰アルコトヲ
示諭スルコトアルナリ
証人宣誓ヲナシタルノ時及ヒ事實参考ノタ
メニ尋問ヲナスコトニ関シテハ其規定我訴訟法
第三百五十六條第一項及ヒ第三百五十八條ノ
第一項及ヒ第三百五十八條ノ第一項乃至第三
項ケルカ如シトス
次ニ尚我訴訟法第三百五十九條乃至第三百六
十一條第二項ノ規定ヲ寫シ出シタル上又証人
ハ寫按ヲ朗讀シ若クハ其他ノ書キ物ヲ參着シ
テ以テ供述ヲナスコト得スト規定セリ則チ必ス
ヤ記憶ニ依リテ悉ク供述ヲ尽スヘク然ル上ニテ

始メテ書類ヲ閲覧シテ其供述ヲ補充シ正誤ム
ルヲ許スナリ但シ數字ニ関スル供述ヲナスノ
場合ニ至ラハ初ヨリ直々ニ書類ヲ用フルヲ
得
陪席判事ハ裁判長ノ許可ヲ得テ証人ニ對シ問
ヲ發スルヲ得當事者ハ証人ニ對スル尋問ヲ
中止スルヲ得又証人ニ對シテ自ラ問ヲナス
ヲ得ス則チ事狀ヲ明ニスルカタメニ有益ナリ
ト思惟スルノ問ヲナサント欲スル片ハ其問ヲ
發セラレニテ裁判長ニ申立ツヘキナリ其問
ノ許否ニ関シテ疑アル片ハ裁判所直々ニ之ヲ
裁判ス
証人ノ供述ハ之ヲ詳密ニ調書ニ記載スヘキナ
リ且宣誓セシメテ之ヲ尋問シタルヤ否ヤ其宣
誓ハ尋問ノ前ナリシヤ將々後ナリシヤヲ明記
スルヲ要ム其尋問及ヒ宣誓若クハ不宣誓ノ一
ニ関スル調書ノ部令ハ書記之ヲ証人ニ讀聞カ
シ若クハ視閲セシムヘシ証人ハ其際變更及ヒ
追補ヲナサンテ之ヲ請求スルヲ得其變更若ク
ハ追補ハ書記之ヲ証人ヨリ其請求アリタル
ヲ附記シテ調書ノ末尾若クハ欄外ニ記載スヘ
ク又同シク之ヲ証人ニ讀聞カシ若クハ視閲セ
シムヘキナリ其他一般ノ調書ニ付キ設ケタル
所ノ調書ヲ讀聞カシ若クハ親閲セシメ及ヒ本
人ニテ承諾シタルノ附記書記ノ立會及ヒ署名
捺印ニ関スル規定ハ此証人調書ニモ亦適用ス

リ且宣誓セシメテ之ヲ尋問シタルヤ否ヤ其宣
誓ハ尋問ノ前ナリシヤ將々後ナリシヤヲ明記
スルヲ要ム其尋問及ヒ宣誓若クハ不宣誓ノ一
ニ関スル調書ノ部令ハ書記之ヲ証人ニ讀聞カ
シ若クハ視閲セシムヘシ証人ハ其際變更及ヒ
追補ヲナサンテ之ヲ請求スルヲ得其變更若ク
ハ追補ハ書記之ヲ証人ヨリ其請求アリタル
ヲ附記シテ調書ノ末尾若クハ欄外ニ記載スヘ
ク又同シク之ヲ証人ニ讀聞カシ若クハ視閲セ
シムヘキナリ其他一般ノ調書ニ付キ設ケタル
所ノ調書ヲ讀聞カシ若クハ親閲セシメ及ヒ本
人ニテ承諾シタルノ附記書記ノ立會及ヒ署名
捺印ニ関スル規定ハ此証人調書ニモ亦適用ス

ルモノトス
 証人ノ尋問法定ノ順序ニ適ハス若クハ完全セ
 ス又ハ其供述明確ヲ欠キ若クハ疑義ヲ存シ又
 ハ証人其供述ヲ追補シ若クハ正誤スルカタメ
 ニ自ラ其申立ヲナシタル場合ニハ再々ヒシテ
 尋問スルヲ得
 我訴訟法第三百四十條ノ第一第三及ヒ第四ニ
 掲クル場合ニハ証人証據ノ採收ヲ受訴裁判所
 ノ判事若クハ治安裁判所ニ任スルヲ得ルモ
 ノトス而シテ其証人若シ其受命判事若クハ受
 託判事ノ前ニ出頭スルヲ能ハサル中ハ其居所
 ニ就キ其尋問ヲ行フナリ
 証人出廷セズ又ハ証言若クハ宣誓ヲ拒絕シタ

ル片其証人ニ對シテ受訴裁判所ニ與ハタル權
 利ハ受命判事若クハ受託判事ニ放テモ亦之ヲ
 有スルナリ然レモ証人若シ右等判事ノ前ニ放
 テ証言ヲナストシテ一般ニ拒絕シ又ハ宣誓ヲナ
 ストシ若クハ判事ノ職權ヲ以テナリ當事者ノ申
 立ニ依リテ抑シタル問ニ答フルトテ拒絕シタル
 ル片ハ其拒絕ノ正否ハ受訴裁判所ノ裁判スルハ
 ナリトス又右等ノ判事ニシテ當事者ノナカ
 ト欲スル問ヲナストシテ差許サハル場合ニハ當
 事者カ受訴裁判所ノ裁判ヲ請求スルニ任カス
 ナリ又前掲ノ場合ニ放ケル証人ノ再尋問ハ右
 判事モ獨立シテ之ヲ命ズルヲ得
 証人ヲ申出ラタル當事者ハ其尋問ヲ始メル迄